

The JIKEI

2003 Summer Vol.4

病気を珍びずして

病人を珍ぶよ

特集

客観的評価を活かして、
理想の姿を追求する。

— 大学基準協会から大学基準適合認定を受ける



Contents

- 巻頭言** 1p ひとつの提言-学長から若人へ- 栗原 敏
- 特集** 2p 客観的評価を活かして、理想の姿を追求する
大学基準協会から大学基準適合認定を受ける。
- 慈恵最前線** 8p 画像情報システムの構築に向けて 福田 国彦
診療のスピードアップとサービス向上を実現する画像情報システムの一部を紹介。
- 視点** 10p 「精神分裂病」が「統合失調症」へ呼称変更 中山 和彦
呼称変更の経緯と今後の治療展開を考察する。
- 研究余話** 11p 脚気の改善食を再現して 柳井 一男
2つの資料から脚気の改善食と死亡原因を確認する。
- 歴史** 12p 評伝 高木兼寛 第三話 高尚な組織づくり 松田 誠
各メンバーの志の高さを重視した、兼寛の「組織づくり」を学ぶ。
- 随想** 14p 健康へのステップ 和田 高士
健康を維持・増進するための「一無・二少・三多」とは。
- 学内めぐり** 15p 輸血部 星 順隆
輸血部の業務と今後の研究内容を紹介。
- 施設・設備** 16p 慈大同窓会・慈恵医師会・生涯学習センター移転/本院カルテ室移転
移転した施設・設備を機能や実用例を交えながら詳しく紹介。
- The JIKEI NEWS FLASH** 17p 新任教授紹介/平成15年度医学部入学式など
注目すべき最新ニュースを満載!
- 生涯学習** 26p 各種セミナーや研修会への取り組み
- BULLETIN BOARD** 27p 行事
- 28p 財務報告
- 31p 補助金・助成金
- 32p 公示
- 33p 学事・慶弔
- 34p 人事
- 47p 附属病院医師人事委員会報告
- 51p 東京慈恵会公報
- 52p ご寄付のお礼
- 53p 創立百二十周年記念事業寄付者名簿

■平成15年 主な大学行事予定

7月22日(火)
看護学科大学説明会
(午後2時から看護学科大教室)

8月2日(土)
慈恵医大夏季セミナー

8月9日(土)
医学科大学説明会
(午後1時30分から中央講堂)

9月19日(金)
看護学科11期生戴帽式
(午前10時から看護学科大教室)

10月4日(土)
同窓会支部長会議ならびに学術連絡会議

10月9・10日(木・金)
第120回成医会総会

10月11日(土)
高木兼寛先生墓参
(午後4時から)

10月15日(水)
高木兼寛先生記念日

10月18日(土)
卒後50周年を迎えた方々との懇親会

10月28日(火)
第99回解剖祭
(午後1時から増上寺)

12月24日(水)
教授・助教授懇親会
(午後6時から)

【巻頭言】



学長 栗原 敏

ひとつの提言
-学長から若人へ-

青田を渡る風も快く感じられる季節になりました。本学に入学した医学生、看護学生、そして本学に就職した新入職員の皆さんはそれぞれの目標に向かって新しい生活が始まり新鮮な日々を送っていると思います。

入学や就職は人生の大きな転機の一つです。皆さんが歩もうという道はおおよそ決まりましたが、それから先、将来の具体的な目標を決めて、それに向かって努力することが必要です。高い志を立てその実現に向けて日々努力して欲しいと思います。具体的な目標を決める上で、多くの人との出会いがしばしば重要な役割を果たします。先生、先輩、友人、あるいは後輩との出会いが皆さんの将来に大きな影響を与えることでしょう。多くの人との世代を超えたコミュニケーションが希薄になりつつある中で、皆さんは積極的に先生や先輩、あるいは友人と接する機会を大切にしたいと思えます。特に、先生や先輩からは、将来の目標について貴重な示唆を得るだけでなく、社会人としてのマナーや多様な文化など多くのことを学ぶことができるはずです。大学、看護専門学校、あるいはそれぞれの職場は自己研鑽の場です。本学のよき伝統の中でそれぞれの専門を学び、あるいは仕事を通して、将来の具体的な自分の目標を見つけることができるよう努力してください

い。具体的な目標を持つことは、それぞれの専門に関することだけでなく、それに関連した多くのことを広く学ぶことにもつながります。

皆さんは知識や技能の研鑽だけでなく、態度、包容力、行動力、意志力、忍耐力など精神的な力も養ってください。知識や技能と共に、精神的な力がその人の全人的な力を発揮するのに必要です。このような精神力は人との出会いや多くの体験を通して身につけることができるものです。本学で学ぶ学生諸君や、本学で働く若い人は是非、多様な人との出会いを大切に“人”から学ぶという気持ちを忘れないで欲しいと思います。

さて、これから本格的に始まる勉学や仕事をする中で、皆さんはいろいろな経験をすると思います。時には苦難ともいえる困難に出会うこともあるはずですが、苦難の時はそれを受け止め乗り越えることにより、精神的に成長するよい機会にもなります。また、人は成功よりも、困難や失敗から学ぶことの方が多という先人の教えも傾聴に値します。20代あるいは30代に、ある目標に向かって必死に努力することによって、皆さんが生涯歩むべき本当の道を見つけることができるのだと思えます。

客観的評価を活かして、
理想の姿を追求する。

大学基準協会から 大学基準適合認定 を受ける。

東京慈恵会医科大学では、教育機関としての責任を果たすために以前から大学としての自己点検・評価に取り組んできました。大学を取り巻く環境が厳しさを増し、大学のあり方が問われている今、さらに厳しい目で現状を評価したいとの考えから、この度、財団法人大学基準協会の実施する「大学評価」を受け、満場一致で、大学基準に適合していると承認されました。



ACCREDITED
2003. 4. ~ 2010. 3

第1部

求められる大学の客観的評価

大学の設置基準の緩和とともに 重要性を増す客観的な評価

少子化の波を受けて学校運営が厳しさを増すなか、大学として適正な水準にあるのかどうかを評価すべきだという声が高まっています。文部科学省でも大学の自主性を高めるために新設学部の新設認可基準などを緩和する一方で、大学としての基準を満たしているかという客観的な評価を定期的に受けるようにする方向で議論が進められています。

以前から大学評価への取り組みは行われてきましたが、昨今の大学評価への認識の高まりは国立大学の行政法人化の動きに端を発しています。国立大学は国家予算によって運営されていますから、全体の予算をどう分配するかは大学の運営そのものを左右します。その基準として大学評価がとりあげられるようになってきました。第三者による客観的な評価を行い、その結果をもとに予算を配分しようというわけです。大学評価が大学にとって大変重要な意味を持つようになったのです。

確かに教育機関としては健全な内容であることが重要であり、以前から内部では自浄作用的に大学評価が行われてきました。しかし、こうした大学評価への動きの中で、改めて、私立大学に対しても大学評価を受けるべきだという認識が高まり、大学基準協会、日本私立大学協会などが大学評価のための基準を設けることになりました。私学にはそれぞれ建学の精神があり、各大学ごとの特色があるべきです。それだけにどんな基準で評価するのが難しいという面がありますが、これらの機関によって客観的な評価が行われるようになるということは、大学の健全化に向けての前進だととらえるべきでしょう。

大学評価の第三者機関は母体・対象ごとにいくつか存在します。国立大学は文部科学省の一組織である「大学評価・学位授与機構」が評価を担当します。私立大学を対象とした評価機関はいくつかありますが、中でも歴史も古く、客観性を持っているのが大学基準協会であるといえます。私立大学と国立大学の両方が加盟し、前述の文部科学省の構想でも、国が認定する評価機関のひとつとしてあげられています。

大学評価活動を推進する 大学基準協会の活動

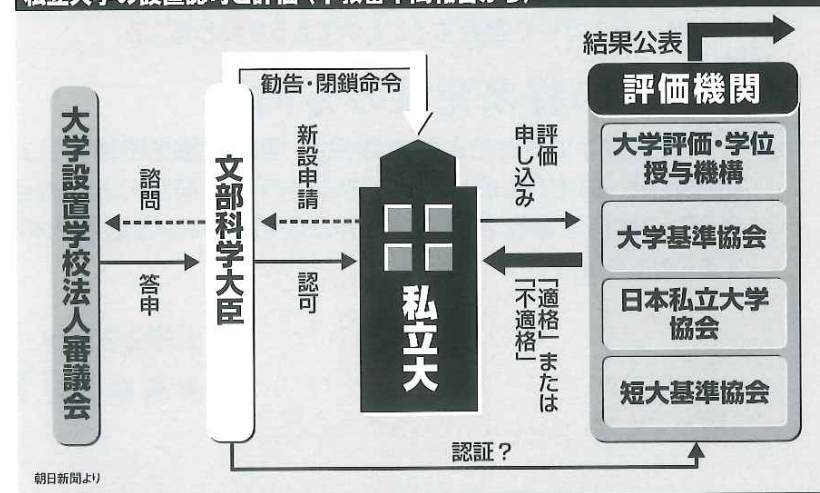
大学基準協会は、1947年7月に、国・公・私立の4年制大学による自立的な団体として創設され、戦後の新しい大学の基準として「大学基準」を自主的に決定しました。この「大学基準」をもとに正会員になるための審査が行われてきました。慈恵医大は1952年に正会員として審査に合格し、大学基準協会に加盟しました。

1956年に、旧文部省が大学設置認可のための「大学設置基準」を制定しましたが、大学基準協会の「大学基準」

も必要に応じてその都度改定を重ね、正会員になるための審査を実施することで、大学の教育・研究の質の維持向上と改善を進める活動を続けてきました。1991年には旧文部省が「大学設置基準」を大幅に緩和したことを受けて、大学が本来、確保すべき教育・研究の質の維持のために、大学自身が「自己点検・評価」を行う必要性が高まり、大学基準協会は1996年に新しい教育・研究の質の維持向上と改善活動として「大学評価」をスタートさせています。

この「大学評価」は新規に協会の正会員になるために行われる「加盟判定審査」とすでに正会員になっている大学を対象に7年ごとに行われる「相互評価」に分かれています。これらの評価は、「大学による自己点検・評価の実施と調書等の提出」「各分科会による審査・評価の実施」「判定委員会・相互評価委員会による最終判定・評価と結果の通知」「大学評価に伴う協会からのアドバイスに対する大学の対応」の4つのプロセスに沿って実施されます。今回、慈恵医大が受けたのは正会員校に対する「相互評価」です。

私立大学の設置認可と評価（中教審中間報告から）



「調査報告書」のまとめ

※大学基準協会に提出した「調査報告書」より抜粋

1 長所と問題点に対する大学自身の総合的評価

本学の教育理念、教育目標は「病気を診ずして、病人を診よ」という建学の精神に基づいている。すなわち全人的医療を実践できる良き医療人（医師、看護師）を育成することにある。以下中略—このように本学が長い伝統を受け継ぎながらも、新しい概念を取り入れ、自己点検評価を行うことにより常に改善、改革を行っていることは高く評価できる。

2 改善・改革のための方策とその全体的効果に関する今後の見通し

大学の構造改革、組織改革、および教育改革を行うにあたり、大学指導層の若返りを計るとともに、多くの人材を海外に派遣し、新しい概念やシステムを積極的に取り入れてきた。まず従来の講座制によらない新たな臓器別、または疾病別の診療科制度を導入し、わかりやすい病院体制に改善した。さらに医療経済理論を基に経営の効率化を進めた。教育改革に関しては、今、注目されている問題解決型の少人数教育（チュートリアル教育）や、従来の学問体系に囚われない、統合型カリキュラムを全国に先駆けていち早く導入した。

さらに新しい評価法である総合試験システムや、客観的臨床能力試験（OSCE）を採用し、良き医療人育成のための教育改革を積極的に行っている。以下中略—このような教育改革は、新しく設置された医学教育研究室が中心となり立案し、カリキュラム委員会や、教学委員会の審議を経て実行に移されている。設備に関しては健全な財政を背景に最新鋭の設備を備えた病院棟、教育・研究棟を新築し、教育、研修、診療の環境を著しく改善した。病院棟には特定機能病院としての機能を果たせる最先端の設備だけでなく、学生に対する臨床実習や患者に対する快い空間が十分に設けられており、医療と臨床医学教育に十分配慮されている。研究棟には従来の基礎医学講座のほか、総合医科学研究センターを設置し、先端的研究の効率化と活性化を行っている。さらに質の高い臨床医学研究を行ってその研究成果を医療に還元するため、evidence-based medicine（EBM）を実践するための、臨床医学研究開発室を設置し、臨床医学研究や社会医学的研究にも力を注いでいる。このような多方面にわたる改善や改革により、教員や学生だけでなくすべての職員の意識改革が進み、本学が目指している「優れた研究に裏付けされた患者中心の最高、最良の医療の実践」に向け一丸となって邁進することができるものと考えられる。

3 大学の将来発展の方向性

人間性豊かで優れた人材の確保と、目的意識を明確にもった教育システムの導入による人材の育成、加えて医療に還元できる質の高い研究の推進を目標として、現状に安住することなく常に世界基準を念頭に、本学の理想としている医療人の育成と医療の実践に向け邁進することである。

大学自己点検・評価委員会
委員長 阿部 俊昭



第2部

「大学評価」の合格認定を受けるまで

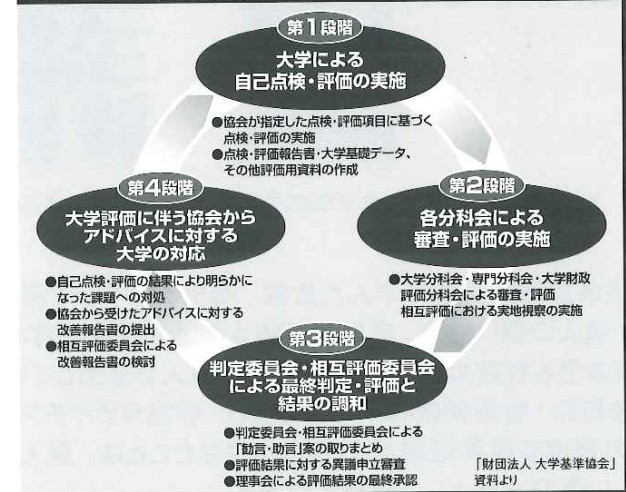
多面的多角的な 大学評価のプロセス

大学基準協会が定める「大学評価」の最初のプロセスは「大学による自己点検・評価の実施と調査等の提出」です。ここでは協会の規定に従って、主要点検・評価項目を中心に大学内で自己点検・評価を行い、その結果と大学の基礎データをとりまとめ報告書として提出しなければなりません。協会が指定する点検・評価項目は対象範囲、点検項目数とも膨大で、大学を対象に116項目、大学院を対象に70項目、合計186項目に及ぶものです。

具体的な報告項目としては、大学・学部・学科の理念から始まり、教育研究組織の体制の概要、各学部・学科の教育研究の内容と教育方法、大学院における教育・研究指導の内容と条件整備、学生の受け入れ方法、教育研究のための人的体制、研究活動の内容と研究体制の整備、各機関の施設・設備の状況、図書館などの整備状況、社会貢献の内容、学生生活への配慮、大学としての管理・運営体制から財務状況、事務組織にまで及びます。これらの情報に加えて、大学としての学部・学科・大学院に対する自己点検・評価があり、さらには自己点検・評価結果をどのように公表し、改善に結び付けていくかということまで求められます。また、基礎データとしては、学生数やその構成、授業科目の詳細、教員組織や研究活動の実績や費用、施設設備の概要や管理運営組織や財務データなど大学に関して数値化できるデータを提出しなければなりません。

慈恵医大では、平成13年12月に資料作成のための作業に着手し、並行して平成14年3月に大学基準協会に「大学評価」を受けるための申請を行いました。大学自己点検・評価委員会の阿部委員長が中心となり、協会が指定する点検・評価項目のとりまとめに約半年をかけ、最終的に報告書を提出したのは6月28日のことでした。

大学基準協会による「大学評価」の流れ



大学評価活動を推進する 大学基準協会の活動

大学基準協会では、大学側からの所定の資料の提供を受けて、大学分科会・専門分科会・大学財政分科会といった分科会で報告書の内容を審査し、総合的に評価を行います。この評価をもとに実地視察が行われ、報告内容と違いがないか、実際に活力が感じられるかなどが判断されます。最終的には、一連の評価内容が大学基準協会の相互評価委員会で検討され、大学に対する助言・助言などが盛り込まれて、理事会の承認を経て、結果が通知されます。

書類上での評価・審査が一通り進み、相互評価委員による実地視察が行われたのは、平成14年11月のことでした。委員は大学基準協会の正会員である北里大学学長・佐藤登志郎氏、聖路加看護大学看護学部長・菱沼典子氏、群馬大学副学長・白井紘行氏の3名で、7日には国領校キャンパスを、18日には西新橋校を視察されました。慈恵医大からは、岡村理事長、栗原学長、阿部委員長を始め、多くの教職員が対応にあたりました。

こうした、自己点検・評価報告書と実地視察の審査・評価を経て、慈恵医大についての「大学評価」の結論が出たのは、

今年の3月です。栗原学長宛てに3月14日付けで、大学基準協会から結果の通知が届きました。そこには「平成15年3月14日開催の評議委員会および理事会において、貴大学が相互評価の結果、本協会の大学基準に適合していることが満場一致をもって承認されました」とあり、同時に「東京慈恵会医科大学に関する

相互評価結果」が送付され、大学基準適合認定証と認定マークが授与されました。「東京慈恵会医科大学に関する相互評価結果」は、相互評価結果、助言・助言の2部から構成され、慈恵医大が大学基準を満たしているという評価結果とともに、概評が述べられ、大学に対する提言として、第三者が見た慈恵医大の長所・問題点、助言や参考意見が記載されています。評価の内容については「概評」を次ページに掲載しましたので、ご一読ください。

「大学評価」を受けるまでの歩み

- 昭和62年6月22日/第一回大学自己点検・評価委員会を開催。
- 平成元年3月/中間報告書をまとめた。
- 平成2年1月8日/大学自己点検・評価規程及び大学自己点検・評価委員会細則を制定。
- 平成9年9月18日/各種協議委員会の活動状況に関するアンケート調査報告書を発行した。
- 平成10年3月19日/大学記録と担当業務年報報告書の改善を行った。
- 平成10年12月/本学の現状と課題及び大学記録V巻の発行を行った。
- 平成12年3月15日/教育・研究・臨床に関する自己点検・評価報告書を発行し、国公立の医学部79校へ公開した。
- 平成13年7月/外部相互評価を受けるための検討を行った。
- 平成13年9月/外部相互評価を受けるための具体的な内容と担当委員を決定した。
- 平成13年10月/評価を受けることを委員会で決定し学長を長とした組織を編成した。
- 平成13年11月/スケジュールと点検・評価の各責任者を決定した。
- 平成13年12月/教授会議、診療部会に外部評価を受けることを報告した。
- 平成13年12月/作業開始。
- 平成14年3月29日/正式に受けるための申請手続きをした。
- 平成14年5月10日/資料の仮提出。
- 平成14年5月31日/仮報告。
- 平成14年6月28日/最終提出。
- 平成14年11月7日/国領校キャンパスの実地視察。
- 平成14年11月18日/西新橋校キャンパスの実地視察。
- 平成15年3月/大学基準協会に認定された。

相互評価の結果 概評

※大学基準協会の「東京慈恵会医科大学に関する相互評価結果」より抜粋

学祖・高木兼寛が英国で学んだ教訓「病気を診ずして病人を診よ」を建学の精神とし、英国型の「病人の側に立つ」実学的医療人養成を医学教育の根幹に据え、1881（明治14）年以来、日本でも有数の長い歴史に亘り医療人を輩出してきたこと、また1885（明治18）年に日本最初の「看護婦教育所」を開設し、学祖がナイチンゲールから学んだ「看護の心」の実践者の育成を教育理念として努力してきたことは、全人的医療が必要とされる現代社会に相応しい医科大学として特筆に値する。

医学部医学科では、教育理念を「医学を正しく認識し、その基本的知識・技術を習得し、更に医の倫理に照らして実践し、併せて自己の人間性を豊かにすること」と定め、学生に対して教育の到達目標を、考え方・態度・習慣の修得、知識の修得、技術の修得、実践的態度と行動の修得の4項目で具体的に明示していること、また教員に対してもカリキュラム懇談会やティーチャートレーニングを定期的開催し、教育の理念・目標の周知徹底を図っていることは評価できる。さらに、コース・ユニット制により教育を客観的に評価・管理する責任体制、教育機能開発プログラムの充実、問題解決能力測定のための3段ジャンプ試験、臨床的推論能力測定のためのマルチステーション試験、客観的臨床能力試験など教育改善や教育評価への体系的な取り組みは高く評価できる。医学部看護学科では、1学年30名のきめ細やかな少人数教育のもと、学科創立の精神である「医師と看護婦は車の両輪」に基づき、社会情勢に合わせたカリキュラムの検討を行っていること、国際活動への参加意欲が高いことなどは評価できる。

一方、大学院医学研究科において、改善の努力は認められるものの、定員充足率が低い。建学の精神からみた大学院教育の位置づけ、旧態依然とした基礎医学系学科の科目編成、共通カリキュラムの不備、教育内容の体系的な検討の欠如などの点で改善すべき点が多く見られる。また、すでに複数の専門看護学校を有するなか、医学部に看護学科を創設した意図と、看護教育の見通しなどが必ずしも明示されておらず、大学全体における看護教育の位置づけ、役割が必ずしも鮮明でないことは改善を要すると思われる。このような面での改革・改善を継続的に実施することができれば、貴大学は、高レベルの特色ある大学として、ますます発展が期待できると思われる。

なお、今回の貴大学における自己点検・評価の結果並びに本協会の相互評価の結果に対し、全学的・組織的に対処し、教育研究のさらなる改善に結びつけることが望まれる。

第3部

大学評価を梃子に 強力に改革を推進する。

—大学評価を受けて

今回の大学評価を受けるまでの背景や、評価内容への感想、今後の展開について、栗原 敏 学長にお話を伺いました。



第三者機関の評価によって 質が保証されていることが重要に

—大学評価を受けようとお考えになった背景についてお聞かせください。

栗原 以前から、大学としての質をより高めるために、自分たちの努力で大学の機能があるべき姿にするという指導が行われてきましたが、日本の大学の情報開示が不十分なことから、大学の質が社会的な問題になってきました。質が高い大学かどうか問われるようになってきたのです。これを受けて、自己点検・評価だけではなく、第三者の評価を受けることが望ましいとされるようになりました。

国公立・私立大学が加盟する大学基準協会では、会員校間で相互評価を行って、大学としての基準を満たしているかどうかを判定しています。そこで、学長に就任したときに、以前から取り組んできた自己点検・評価をもとに、この相互評価を受けてはどうかと提案したのです。公的な第三者の評価を受けて認定されれば、対外的にも基準を満たしている大学であるといえます。質が保証されている大学であることを社会に広く、かつ早く認知してもらうことが重要だと考えました。また、平成8年から取り組んできた教育改革がどう評価されるのかについても、大変興味がありました。

—評価にあたって特に留意されたのはどのような点ですか。

栗原 3つの点でどう評価されるか不安でした。1つは研究面です。本学は大学と病院を機能的に分けています。診療の改革にも積極的に取り組んでいますので研究活動がやや疎かになっていると感じていましたので。次に、独特の特色ある実践的な研究に取り組んでいるのですが、旧帝大のように大学院を特に重点化していませんので、それがどう評価されるのか。3つ目としては、看護学科は、少人数で特色のある看護教育を行っています。大学院がありません。そこをどう評価されるのか、という点です。

高く評価された 教育改革への取り組み

—実際の評価の内容に対してはどんな感想をお持ちになりましたか。

栗原 教育改革で取り組んできた、講座の壁を越えた教育・研究組織については高い評価を得ることができました。また、大学の施設面についても、新しく出来た大学1号館や医学情報センター、組織学実習室、国領キャンパスなどは、高く評価されました。問題は研究面、特に大学院です。大学院生の充足率や今後の研究の発展をどのように図るかなどの点を指摘されました。学部教育や診療の体系の改革は進めてきましたが、研究面での改革がより一層求められています。ただ、旧帝大とは違いますが、研究にも単科医科大学としての特色が出るべきです。本学の特色である診療の活性化と研究への取り組みをどう両立

させるかが難しいところです。

また、看護学科については、抜本的な改革が必要との指摘がありました。これについては、改めて大学基準協会の真意を伺おうと思っています。看護学科では、医学科と連携して看護師を育成してきました。研究は勿論必要ですが、学問だけではなく、建学の精神に基づいた質の高い看護の実践が出来る看護師の育成が重要だと思っています。単純に、大学院がないことや講座の形態をとっていないことが問題なのか、具体的な点を明らかにしていきたいですね。

—今回の大学評価を今後どう活かしていくのでしょうか。

栗原 今回の評価は概ね予想通りだと思っています。自己評価をして自己改革するというのは一番難しいことです。第三者評価により問題点を指摘され、改善に取り組まなければならないという気運が高まります。例えば、医学科の定員オーバーについては、入学者数を厳しく守るとか、教育の質を高めて留年者を減らすなどして改善していかなければなりません。今後は、今回の評価をテコに改革を進め、よりよい大学作りに取り組んで行こうと考えています。



画像情報システムの構築に向けて

画像診断部では、医療情報部および情報技術研究室と連携をとりながら、附属病院の画像情報システムの構築に取り組んでおりますので、その一端をご紹介します。

平成13年8月から情報技術研究室、画像診断部、および東芝と画像診断報告システムの共同研究を行っています。これまでに約7万件の画像診断報告書が蓄積されました。全ての画像診断報告書がコンピュータ管理されると、画像診断報告書の内容が継続性を持ち、より質の高い画像診断報告書の作成が可能となります(図1)。5月からは読影端末が本館読影室に6台、中央棟読影室に2台となり、読影システムが強化されます。これにより、CT、MRI、画像診断部で行った各種造影検査、および読影依頼のある単純X線写真の読影が全て画像診断報告システムを使って行われることとなります。今後、超音波検査と核医学検査の読影も同じ画像診断報告システムで作成して行く予定です。

当初、計画されていた本学の『保険医療分野の情報化にむけてのブランドデザイン』では、画像診断報告書の学内LANを利用したWeb配信は、来年度に予定されていました。しかし、この春から1患者1カルテケースを実現するにあたり、カル

テケースを圧迫させないために、近日中にWeb配信を実現させることで修正が行われました。これが実現すると、読影室で読影が完了すると同時にWebを介して依頼医師の参照パソコンに報告書が配信され参照できるようになります。



附属病院 画像診断部
部長 福田 國彦

依頼医師の先生方をお待たせする事無く、即時配信されますので、診療のスピードアップと患者様へのサービス向上が得られると考えております。

今後、画像診断報告書のみならず画像情報も先生方と共有できる環境作りが必要です。様々な装置の画像データを共通規格で伝達・管理・保管を行うPACSを構築し、病院内の情報システムと連結する必要があります。この一連のシステムが構築されると、病院に多くのメリットをもたらしますがここでは、2つを強調して述べます。まず、第1のメリットはフィルムの現像、搬送、保管が基本的に不要になることです。このことから派生して、画像が撮影されから依頼医師の手元にフィルム(画像)が届くまでの時間が著しく短縮され、患者様をお待たせすることがなくなります。フィルムを使わなくなりますから、ミスファイルなどによるフィルムの紛失が解消されます。また、フィルム整理、搬送、保管のための人的労力の省力化とフィルム保管スペースの節約が図れます。第2番目のメリットは、画像へのアクセスが改善し診療の質の向上に貢献することです。比較フィルムを探す手間が不要となり、いつ

でも以前の画像と比較し治療効果を知ることが出来るようになります。また、臨床医と画像診断医がそれぞれの部署にしながら同一の症例の検討ができる環境も構築できます。この2つ以外にも、メリットはいくつかあります。画像診断に関連した書類の発生がなくなる、教育用画像ファイル作成が可能となる、遠隔画像診断や病診連携の強化に繋がるなどです。このように、病院情報システムと連携した使い易いPACSを構築すると、画像診断部にもメリットをもたらしますが、むしろ画像診断部を利用する各診療科の医師や患者様へのメリットが非常に大きいことがご理解いただけると思います。

画像情報システムの構築にはメリットがありますが、みなさんが心配されるようにそれなりの初期投資と管理維持費用が必要です。また、このシステム構築にあたり情報技術研究室、画像診断医、放射線技師、メーカーの技術者が慎重に検討を重ねて慈恵大学病院にあった使い易いものを作り上げることも重要です。更に、メーカーの技術陣が引き上げた直後から始まるシステム運用、また安定期に入ってから継続してシステム運用状態のチェック、ハードウェアとソフト

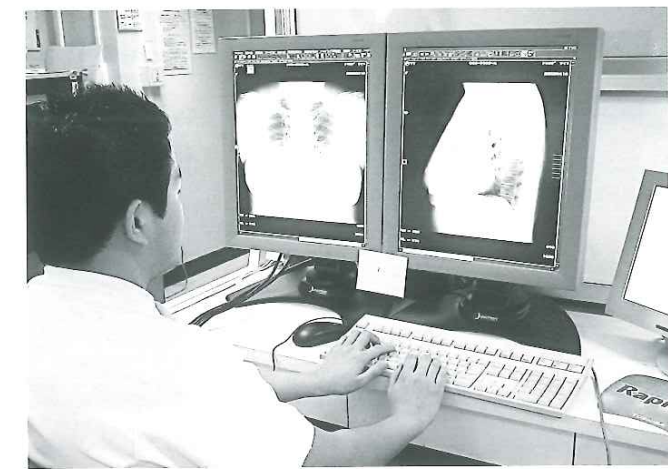
ウェアの管理、ソフトウェアのアップデート、臨床医など利用者の教育を行う専任部署を構築しなければならないでしょう。

画像情報システム構築の小さな第一歩として、この春から晴海トリートクリニックと本館読影室とを結んで試験的に画像転送を行っております(図2)。現在、晴海トリートクリニックへの画像診断医の派遣は午前中のみですので、午後

の時間帯の読影については画像転送を行い本館読影室で行っております。また、午前中の派遣画像診断医が本館読影室の画像診断医にセカンドオピニオンを得る目的でも使用しており、診療の質の向上にも役立っております。今後、このような試験的運用を重ねながら、一步一步、画像情報システムの構築に向けて前進して行きたいと考えております。



(図1)
画像診断報告システムを使った読影



(図2)
本館読影室にて晴海トリートクリニックの画像をチェック

「精神分裂病」が「統合失調症」へ呼称変更

精神医学講座 助教授 中山 和彦



日本精神神経学会は2002年8月26日の第98回総会において、1937年から使われてきた「精神分裂病」という病名を「統合失調症」と改める決議案を採択した。また厚生労働省は精神保健福祉法に関わる公的文書や診療報酬のレセプト病名に「統合失調症」を使用することを認め、各都道府県・政令都市にその旨を通知した。

1. 呼称変更の経緯

呼称変更の背景には、1993年全国精神障害者家族連合会から「精神そのものの分裂」と理解されることがあり、患者の人格否定や家族への精神的苦痛につながるとの訴えが契機になった。さらにそれが患者のノーマライゼーション（社会参加）の阻害、予後の不良につながるという事情があった。それに対して同学会は呼称変更委員会をわが講座の牛島定信教授を初代委員長にして発足させ、約10年近く議論を重ねた結果、ようやく実ったのである。委員会では原語となったschizophreniaの再解釈を行い、病名が患者や家族に苦痛や不利益をもたらさないことを考慮して「クレペリン・プロイラー症候群」、「スキゾフレニア」、「統合失調症」の3つの新病名を作成した。それらについて精神神経学会評議員へのアンケートや公聴会を開催して家族会からの評価の高いこと、多くの医師から「一刻も早く用語変更することが重要で理想の病名を求めることではない」との意見が相次ぎ、「統合失調症」と改めることになった。

2. 社会復帰とスティグマ（偏見）

病名変更の最大の理由は、精神障害への誤解や偏見が存在する精神医療の問題において、「精神分裂病」という病名自体に起因する部分が少なからずあったことである。人格否定的で、ノーマライゼーション（社会参加）にとって侵襲的であるこの呼称を変更することは遅すぎたと言える。また最近の精神医学の進歩によって本疾

患の概念は随分変化を遂げた。表1には予後不良と考えられていた以前の精神分裂病と現在の軽症化されている統合失調症を比較したものを示した。非定型抗精神病薬をはじめとした新しい薬物療法や心理療法によって長期予後でも過半数が回復するようになった。このように病気が回復しても一生「精神分裂病」の名前が付きまとい、その弊害は計り知れない。

表2には日本精神神経学会医師による社会復帰施設に入所、通院していた当時「精神分裂病」と診断されていた患者1,991人に対するアンケート結果である。62%が病名による不利益を受け、社会生活に大きな支障があると答えた。それが「統合失調症」に変更されることで、ネガティブなイメージが改善するだろうという結果が出ている。

3. 新しい治療の展開

呼称変更により病名告知が容易になり、心理教育を組み入れやすくなることが期待される。有用な薬物もコンプライアンスが重要である。十分な治療目的の説明や、副作用の軽減から、さらに治療成績が向上されていく可能性がまだある。病名告知は安全に、しかも合理的に治療を進めていくには必須といえる。呼称変更はスティグマ（偏見）の払拭のためだけではない。現在治療中の患者がさらに適切な治療を受けられ、差別のない社会生活が送れるようになるために役立つ大いなる展開である。

参考文献：

- 1) 岩館敏晴：精神誌98(4):239-244,1996
- 2) 佐藤光源：精神誌102(7):589-615,2000
- 3) 佐藤光源：日本精神神経学会HP,2003
- 4) 日経CME,2002.11

表2：「精神分裂病」および「統合失調症」にはどのようなイメージがありますか？

(5点評価：0=ない、1=あまりない、2=どちらとも言えない、3=ややある、4=そのとおり)

	精神分裂病	統合失調症	有意差
暴力的/危険	1.89	1.29	有り
罪を犯す	1.67	1.20	有り
ホームレス	1.12	1.03	有り
人に迷惑をかける	1.97	1.55	有り
汚れた衣服を着ている	1.47	1.27	有り
症状に苦しむ	1.94	1.65	有り
自殺する/うつ状態	1.78	1.52	有り
犯罪の被害者	1.28	1.16	有り
他人の人生に影響を及ぼす	2.04	1.61	有り

3)

4)

表1：疾病概念の比較

	精神分裂病(旧)	統合失調症
疾病概念	一疾患単位 (早期痴呆が中核)	特有の症状群 (多因子性)
指標	脳の発症脆弱性で規定	臨床症状群で規定
疾病と人格	不可分	別の次元
原因	不明	神経伝達系の異常 成因に異種性が存在
重症度	重症	軽症化
予後	不良	過半数が回復
病名告知/心理教育	困難	容易
治療	主に薬物療法	薬物療法と心理社会療法

研究余話

脚気の改善食を再現して



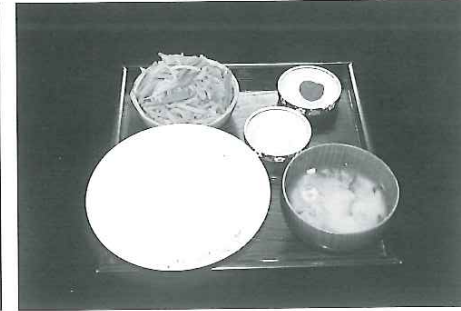
附属病院・栄養部 課長 柳井 一男

かねてより、ライフワークとして高木学祖の脚気改善食を研究してみたいと考えていた。平成14年附属病院異動をきっかけに、医学情報センター史料室の中村茂氏を尋ねたところ「新しい資料を発見したよ」と嬉しそうにコピーを見せていただいた。一つは三宿病院(旧陸軍病院)で保管してあった明治23年11月付、海軍中央衛生会議(議長高木兼寛)、海軍脚気病予防事歴で121ページに及ぶ報告書である。その中に明治17年2月2日選定として、一人一日平均食量表が掲載されていた。なじみ深い軍艦筑波の脚気改善食である。米(180匁・67匁)、肉類(80匁・30匁)、魚類(40匁・15匁)、味噌(14匁・5匁)、醤油(16匁・6匁)、野菜(12匁・4匁)、豆類(12匁・4匁)、麦粉(20匁・7匁)、茶(2匁・7匁)、脂油類(4匁・1匁)、糖類(20匁・7匁)、牛乳(12匁・4匁)、酢(2匁・7匁)、香料(3分・1匁)、酒類(24匁・9匁)、塩(2匁・7匁)、漬物(20匁・7匁)、菓

卵ヲ肉ニ代用ストキハ卵一個ヲ肉十匁ト看做スヘシ、メ五百六十八匁三分と書かれている。五訂食品成分表で計算すると、4520Kcal・蛋白質163.2g・脂肪67.1g・炭水化物724.4gとなった。驚くことに現在もはやされているスポーツ栄養のエネルギー量3000〜5000Kcalそのものであり、栄養バランスも大変良くとれている。もう一つは国立公文書館に保管されていた明治18年2月25日付、脚気病調査委員会から海軍卿伯爵川村純義へあてた163ページの報告書である。これは軍艦龍驤の出港日(明治15年12月19日)から帰着日(明治16年9月15日)までの全ての出庫食品について、下士卒・生徒・准士官・士官別に人数と出庫量が記録されている。これを分析すれば、脚気で死亡した原因がビタミンB1不足であることが再確認できる。大変貴重な驚くべき資料である。



▲軍艦筑波の下士卒脚気改善食の1例(史料室掲載) 注)写真は1人1食分の献立例



▲軍艦龍驤の下士卒食事の1例(史料室掲載)

力して欲しいとの依頼を受け、かつて軍艦榛名の軍医であられた阿部正和元学長のご指導を仰ぎながら、これらの資料を参考にビデオ(大いなる航海)撮影用のメニューを作成した。



名誉教授
松田 誠

第三話

高尚な組織づくり

高木兼寛は、何か事業をはじめるときには、まず志を同じくする者を集め、組織し、その組織全体で目的に向かうのを常とした。そして組織は大きくするよりも、むしろ各メンバーの志の高さを問題にした。そのことは成医会を組織するときにも同じことであった（成医会が慈恵医大の前身、医会成医会講習所をつくったことは説明するまでもないであろう）。当時、成医会の入会費は3円、会費は月額1円という高額であり（現在の価値にすると、それぞれほぼ3万円、1万円に相当する）、会員のなかには入会金を1円に、会費を月額30銭に下げて、会員をもっと増やすべきではないかという意見をだす者がいたが、兼寛は断然これに反対であった。そして「現在の入会費、会費に耐えないものは、即ち本会の目的に協力する資格のないものであるから、あえて費用を廉価にして人の多きを求める必要はない」というのがその理由であった。

病院や医学校の医師、教員を組織する場合にもそれは同じことで、これぞと思う人物があれば強引に勧誘した。日高 昂（後の慈恵医専眼科教授）がまだ青年医師であった頃、同じ日向出身の大先輩として兼寛を訪ねたことがあったが、そのとき兼寛はこの人物がよほど気に入ったらしく、後に高給をとって仙台の病院に勤めていた日高にこんな手紙を送っている。「君は往年東京に出てもよいと云っていたが、今もってその意であるか。じつは自分設立の東京病院において瀨脇ドクトル（院長）が辞職するについては、その後任として君を招きたい。給料はいま摂っているだけ遣る、また別に手当てがあるならそれも遣る、住居の世話もして遣る」というのである（表現があまりに率直すぎて可笑しいほどである）。日高はその熱い勧誘にしたがって兼寛の配下に入り（明治25年）、期待どおり同病院の院長ならびに眼科の主任として大いに活躍した。



日高 昂教授（右上）と当時の眼科研究室

同氏の手術は神技に近く、いたるところ可ならざるはなく、多くの手術に靈腕をふるった。また同氏の慈恵医専における講義やポリクリは極めて明快であり、学生にすこぶる好評であった。有名な訳著「明氏眼科学」も数少ない当時の専門書としてはなはだ学会に資するところが大きかったといわれる。

もう一つの例も（成功はしなかったものの）同じような話であるが、この場合の目標は野口英世であった。慈恵医専初期の細菌学の専任講師は、伝染病研究所で北里柴三郎に師事していた秦佐八郎であったが、秦は明治40年ドイツのエルリッヒのところに留学したため、その後任を探さねばならなくなった。

兼寛は秦の後任として、やはり北里の門弟であり、当時ロックフェラー医学研究所に留学していた野口英世を是非招きたいと考えた。兼寛が米国を視察旅行したとき（明治39年）、その研究所で青年野口が華々しく活躍していたからであった。しかし、そのことを野口に打診したところ、彼からは米国での研究を続けたいため、残念ながらご意向に沿えないという返事

があった（兼寛からその結果を聞いた北里は、代わりに同じ門弟である綿引朝光を推薦した。つまり本学の初代細菌学教授である）。招聘には失敗したとはいえ、その後の野口の国際的活躍をみれば、兼寛の人を診る目が如何に確かだったかがよく分るのである。

一方、兼寛には、いったん自分らの仲間になった以上は、よかれあしかれ最後まで面倒をみななければならないといった考えがあった。ある時、医学校の事務長が会計をごまかしたことがあった。そのことを人から知った兼寛は、翌日その事務長の月給を上げてしまった。「月給が足りないからやったんだろう、悪い人間じゃない、きっとよくなる」と言うのであった。もちろんその後は、そんなつまらないことは起こらなかったという。

晩年、兼寛は、長男であり後継者になった高木喜寛に、組織の和について、このように話したことがあった。「何かの争いがあったら、必ず両方の話を聞いて裁け。片方の言い分だけで裁いてはいかんぞ」と。これも組織の維持のための心得だったのであろう。

健康へのステップ



附属病院 健康医学センター
センター長 和田高士

誰しも常に健康でありたいと願う気持ちは、いつの時代になっても持ちつづけるでしょう。とりわけ、病気になるたときにそのことは強く感じられるはず。では、どのような生き方が健康を維持・増進していくのに必要なのでしょう。その一つの答えとして、私も東京慈恵会医科大学附属病院健康医学センターは、「一無・二少・三多」という健康標語を掲げています。

「一無とは、「無煙」、つまりタバコを吸わないということです。タバコの害はここで述べるまでもありません。

二少とは「少食・少酒」です。少食は、できればもう少し食べてみたいけれども、まあこれくらいで止めてもいいかなという食事量です。食べ過ぎは肥満をもたらし、さらには糖尿病、高脂血症などの病気をひき起こします。また、少酒とは、飲酒も少量ならよいでしょうということ。少量とは、日本酒なら1合、ビールなら中ビン1本、ウイスキーならダブル1杯程度をい

ます。

三多とは「多動・多休・多接」であります。多動とは、たくさん動くということです。公共の交通機関を使わずにタクシーを、歩かずに自転車を、階段を使わずにエスカレーターをつい利用してしまいます。ヒトは動物の一種ですので、動くことにより血のめぐりもよくなり、疲れてぐっすり眠ることもできます。いまさらスポーツといっても、サッカーやバレーボールをする必要はありません。できるだけ、そして速く歩くようにしましょう。買い物に行く場合、ときには遠くの店にも行ってみる、昼休みは遠くの本屋に行ってみる、仕事場から帰るときは一駅先まで歩いてバスや電車に乗ってみる、などのちょっとした工夫でよいのです。

多休とは、意識的に休憩を、あるいは十分な睡眠をとることです。休みなく仕事を続けていると、眼の疲れ、肩こり、腰痛などが起こりやすくなります。適宜、休憩はとり入れたいものです。また、1日の疲れをとるのにあ

なたにとって必要な時間の休息、睡眠をとること、1カ月に6日以上休むをとることも必要です。「金属疲労」により飛行機は墜落してしまいますが、「勤続疲労」で命を落とさないようにしましょう。

最後の多接とは、多くの人や物に接して豊かな心にするということです。悩みがあれば相談する、おしゃべりを楽しむ、音楽を聴いたり旅行をしているいろいろなものに触れることにより、日頃のストレスが解消されていきます。さらにこの多接が創造的な人生を創ると思います。

約8千人を対象とした調査で、この「一無・二少・三多」を実行している人は、あまりいない人と比較して、肺機能は良く、血圧も血糖値も低い、動脈硬化の程度も軽いなど多くの優れたデータが示されています。

あなたはこの6つの習慣いくつ実行されていますか？ 今日から6つ全てする必要はありません。2つの人は3つ、3つの人は4つと1つ多くしていきましよう。

輸血部

教授 星 順隆

慈恵医大附属病院の輸血部は1965年に設立されました。前年に起こった、ライシャワー米国大使の輸血後肝炎発症を契機に、国は売血から献血へ一本化する方針転換を行いました。その決定に従い、当院も血液の購入先を私営血液バンクより日赤血液センターに変更しました。しかし、当時の日赤血液センターには、十分な供給能力がないために、不足分を院内採血で確保する必要があったためです。その後、時代の変化とともに輸血部の業務内容は大きく変化してきました。

院内採血は、血小板製剤を中心に、成分製剤の確保、および当日新鮮全血（生血）確保のために実施されてきました。しかし、1990年にC型肝炎の検査が開始されたのを契機に、安全性で優れる日赤血の使用が基本となり、院内血の使用は激減し、1992年以後は、特殊な場合を除いて、院内採血は実施されていません。

輸血部の業務は、検査、血液の保存管理、血液製剤の調整、副作用管理、適正使用の指導、安全対策の実施など、多岐に及びます。昨今は、検査や採血業務から、リスクマネジメントとしての管理に重点が置かれるようになりました。さらに輸血医療の安全向上のために輸血管理システムの検討、血液製剤の研究開発、輸血用器具や検査機器の開発を手がけるようになってきました。



左上から
湯川技師、山崎主任、市井技師、堀技師、永井技師長補佐（認定輸血検査技師）
長谷川医員、星部長、大坪医員

場所：中央棟2階
スタッフ：診療部長：星 順隆（教授）
診療医員：長谷川 望（小児科兼務）
大坪 寛子（血液内科兼務）
長田 広司（非常勤講師）
臨床検査技師：10名
（認定輸血検査技師4名を含む）

業務内容：

- 1) 検査：血液型検査（ABO、Rh、HLAなど）、交差適合試験、抗体スクリーニング検査、ウイルス検査（HIV、HTLV、HCV、HBVなど）
- 2) 院内採血：自己血採取・保存、末梢血幹細胞採取・保存、リンパ球採取
- 3) 保管・管理：輸血用血液成分、末梢血幹細胞、臍帯血造血細胞、骨髄液等
- 4) 安全対策：安全情報の提供、副作用の調査、適正輸血の推進
- 5) 造血細胞処理：造血幹細胞の純化、濃縮、凍結 など
- 6) 教育：医学部学生、臨床検査技師、研修医、レジデントなどに対する輸血教育
- 7) 研究：安全な血液製剤の開発、輸血器具の開発、ドナー医学の開発

今後の業務・研究内容：

輸血医療は、生きた細胞を使用した一種の移植です。さらに、近年進歩した造血細胞治療は、骨髄、末梢血、臍帯血幹細胞を用いて造血細胞のみならず、さまざまな細胞再生への応用が開始されています。造血幹細胞移植の多様化に伴って、自家造血細胞採取のみならず、同種造血細胞（幹細胞、リンパ球）採取が頻回に行われるようになってきました。近い将来、非血縁ドナーからの採取も開始されます。輸血医療や移植医療に用いられる生細胞を分析し、適切な採取・保存方法を開発し、臨床応用することを目的に研究を続けています。さらに、血液や造血幹細胞を提供してくれるドナーの行動を心理的・社会的に解析し、より満足できる環境を構築する方法を検討してきました。今後も、輸血・造血細胞治療が必要な患者さんに、より安全な製剤を提供する努力を続けるとともに、ヒトの血液からの脱却を目指して、新しい技術開発を行っていきたいと考えています。

慈大同窓会・慈恵医師会・生涯学習センターが移転 大学管理棟への移転により利用スペースが拡大

平成15年2月1日、大学2号館10階の慈大同窓会、慈恵医師会、生涯学習センターおよび名誉・客員教授談話室が大学管理棟8階に移転しました。この建物は、平成12年3月に大学がテナント入居のまま購入したもので、1棟貸しをしていたテナントから一部返還があり、8階を改装して移転したものです。事務所、会議室をはじめ以前のスペースより広く利用できるようになりました。また、9階には大学管理の会議室が2室あり、間仕切りを取り払い、より広く利用することも可能となっております。この会議室は、去る5月17日（土）

に開催されました「慈大同窓会 第49回通常総会」に利用されております。現在もこの管理棟内の低層階にはテナント（企業）が入居していますので、出入りは通用口からとなります。よって、慈大同窓会、慈恵医師会、生涯学習センター

ならびに名誉・客員教授談話室をご利用の場合は、同窓会事務室などそれぞれの事務局へお問い合わせください。



▲広くなった同窓会事務室

本院カルテ室が移転 外来通院患者12万人分のカルテが保存可能に

本院、内科中央カルテ室は、平成15年2月9日より、A棟地下1階（栄養部厨房跡）に、外来中央カルテ室と名称を改め、外来通院患者12万人分を保管可能とするカルテ室の運用を開始しました。

勤務構成は、午前8:00～午後7:00迄で、翌日予約患者の診療録取出し、予約外患者の当日出庫から始まります。また、透析・

内視鏡・ECHO・病棟入院をはじめとする関係部署への貸出業務も行っています。現在は内科診療を対象としているので、1日約1,000件前後の出庫を行っています。

所在管理システムとして、カルテフォルダーにICチップを添付し各診療科の受付にて、入出庫のアリバイ管理を行い、外来中央カルテ室では、ICチップ所在管理をはじめ、カルテ

テへ配架する際のアリバイ管理にバーコード登録を行っています。パソコン検索による予約システム、所在管理を中心に診療録の入出庫が行われるため、外来との調整は必要不可欠であり、患者対応を中心とする窓口業務をより円滑に行うためには、



▲ICチップ読み取り機

外来中央カルテ室は、外来との連携を密に行う必要があります。

なお、平成15年6月9日より、全診療科を対象とした予約管理システムが導入され、予約に基づき、前日に各診療科へ診療録出庫されています。



▲中央カルテ室内

The JIKEI NEWS FLASH

学内ニュース

新任教授紹介

①講座名・氏名 外科学 矢永 勝彦
②専門分野 消化器外科、移植外科
③主な略歴
昭和54年 九州大学医学部卒業
昭和55年～58年 米国ハーネマン大学・関連病院レジデント
昭和61年 九州大学第二外科助手
昭和63年～平成元年 米国ピッツバーグ大学助教授
平成9年 九州大学講師
平成10年 松山赤十字病院外科部長
平成12年 長崎大学第二外科講師
平成14年 同大大学院移植・消化器外科講師
平成15年4月 本学外科学講座教授（消化器外科担当）就任

④出身地 福岡県
⑤趣味・特技 ドライブ、テニス
⑥一言メッセージ 伝統ある大学の名門外科教室への赴任で身が引き締まる思いです。努力が報われる組織を構築し、最良の治療の提供、難治性疾患の治療法の開発、卒前卒後教育の充実と特徴ある外科医の輩出をめざします。皆様のご支援とご協力をお願いします。



①講座名・氏名 微生物学第1講座 近藤 一博
②専門分野 ヘルペスウィルスの潜伏感染と疾患の研究
③主な略歴
昭和60年 大阪大学医学部卒業
大阪大学医学部免疫内科研修医
平成2年 大阪大学大学院医学研究科博士課程修了
平成3年 大阪大学微生物病研究所助手
平成5年～7年 スタンフォード大学留学
平成8年 大阪大学医学部微生物学助教授
平成15年4月 本学微生物学第1講座教授就任

④出身地 愛知県、岡崎市
⑤趣味・特技 読書（宇宙・素粒子・進化論などに関する通俗書が好きです）
⑥一言メッセージ 私は、原因不明の難病のかなりの部分で、ウィルスが原因や増悪因子になっていると考えているウィルス学者です。皆さんと一緒に、難病の原因究明や治療法の開発を行っていきたくと考えています。よろしくお願致します。

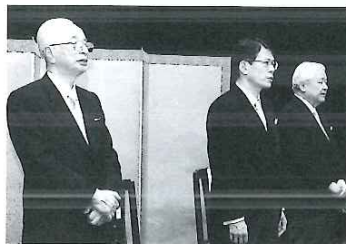


①講座名・氏名 数学研究室 鈴木 暁之
②専門分野 有限群の線型表現および関連する代数学、数学教育、統計教育
③主な略歴
昭和44年 早稲田大学理工学部数学科卒業
昭和55年 早稲田大学大学院理工学研究（数学専攻）博士課程修了
本学助手（進学課程数学教室）
昭和57年 本学講師
平成7年 本学助教授
平成15年4月 本学教授就任

④出身地 東京都
⑤趣味・特技 水泳、読書、将棋、落語鑑賞
⑥一言メッセージ 理論のしっかりしたわかりやすい数学および統計教育を行いたい。そのことが結果として医学教育に貢献すると思っております。1年間はやり残した数学教育に関する論文や著作の完成に当てる予定ですが、後の在職期間は、若い医学研究者のために数学的理論と実践との橋渡しを行いたい。また、学生諸君の大学生活に少しでも寄与できれば良いと思っています。



謙虚な気持ちを忘れずに物事の本質を見極める 平成15年度医学部入学式



▲新入生を見守る栗原学長

医学部医学科・看護学科入学式が4月3日(木)午後2時より中央講堂において挙行されました。今年度の新入学生は、医学科103名、看護学科31名でした。式典は式次第に則り進められ、開会に続き、国歌斉唱の後、医学科、看護学科の入学生の氏名が読み上げられ、返事と共に起立した学生に対し栗原学長より入学許可が宣せられました。次いで、医学科入学生を代表して新見昌央さんより、「122年の歴史と伝統ある慈恵医大に入学できた喜びとともに知識と共に人としての品位を学び、人間性を豊かにして病人の気持ちが理解できるよう初心を忘れずに日々精進する。」と宣誓され、続いて看護学科入学生金井理茶さんは、「歴史ある慈恵に入学でき、希望に胸膨らむ一方、身の引き締まる思いである。また、思いやりのある医療者をめざして弛まぬ努力をする。」と宣誓されました。

続いて学長より告辞として次のような内容で述べられました。「諸君は人の話しに良く耳を傾け、様々な人とコミュニケーションができる能力を磨かなくてはなりません。また、今の時代に医学や看護学を学ぼうとしている諸君は、それぞれの専門科目だけで

はなく、いわゆる教養科目も良く学び、多様な文化と人を理解するように努力することが求められている。これから夢に見ていた医学や看護学を学ぶにあたって知識や技能を習得したというだけでおごることなく、謙虚な気持ちを忘れずに物事の本質を見極める叡智を身につけて欲しいと希望します。」次いで、入学生代表医学科・森田暁壮さんと看護学科・川田順子さんに記念ペナントと学祖・高木兼寛記念フォトフレームが手渡されました。最後に全員が起立して学生歌「曙満ちくる」が斉唱され、入学式は閉会となりました。

この入学式終了後、看護学科入学生と父兄の皆さんおよび教員はバスで国領校へ移動してオリエンテーションと懇親会が、医学科学生と父兄の皆さんは新築の大学1号館を見学した後、高木2号館1へに会場を移し、父兄会主催による懇親会が開催されました。



▲新入生代表による宣誓

日常生活に運動を

スポーツ医学研究室 講師 河野 照茂

私たちの身体と運動の関係について、「ルーの3原則」があります。「身体を使わなければ衰える」、「使いすぎれば故障をおこす」、「適度に使えば発達する」の3原則です。スポーツ選手を例に考えてみます。野球でもサッカーでもシーズンが始まる前には、キャンプなどで体力づくりを行います。これはシーズンオフで休んでいる間に落ちた体力を、試合ができる体力をつけるために行われます。体力づくりに成功した選手は、次のシーズンも活躍できます。しかしながら、体力が低下したままの選手はケガをしたり、コンディションを崩したりします。これが「ルーの3原則」です。

このことは、スポーツ選手だけにあてはまるのでしょうか。答えは、「ノー」です。年齢や性別に関係なく、すべての人に当てはまります。私たちの身体は、適度に動かすことによって正常に機能するようにできているからです。

身体を動かすことが大事なことはわかりますが、どのぐらいが適度なのでしょうか。シーソーを思い浮かべてください。シーソーの両方が同じ重さであればバ

ランスが取れます。しかしどちらかが重くなれば、シーソーは傾きます。片方が私たちの体力、もう一方が運動です。運動が激しくなったり、時間が長くなったりしたとき、それに応じて私たちの体力を強くしていけばシーソーのバランスはくずれません。そうすれば、身体は衰えもせず、故障もしません。

日常生活でどのような運動をすればよいのでしょうか。身体を動かすことには2種類あります。ひとつはスタミナ作りの運動です。歩いたり、走ったり、泳いだりです。健康のためにはつらくない運動を1日15分、体力づくりのためにはややきつい運動を15分行います。そして忘れてならないのは筋力です。体を動かすためには力が必要です。筋力が低下したまま運動すると腰痛や膝の痛みなど故障を起こします。「腹筋運動ができない」、「階段を上るのが苦になる」、人はすでに筋力が衰えています。筋力トレーニングは、年齢に関係なく効果があり、力が強くなります。1日に10回、腹筋運動やスクワットで足や腰の筋力強化を行うことが重要です。

テレビ会議システムを利用した緊急セミナーが開催される 緊急セミナー「重症急性呼吸器症候群(SARS)」

平成15年5月9日(金)午後6時より、2時間30分にわたり、大学1号館において「重症急性呼吸器症候群(SARS:Severe Acute Respiratory Syndrome)」の緊急セミナーが開催されました。当日の内容は下記のとおりですが、参加者は、大学1号館3階講堂をはじめ、同5階講堂も満席の状態になり、急きよ会場内に補助イスが運びこまれる状況でした。また、この講演内容はテレビ会議システムを利用して各機関に放映されましたが、各々の会場とも大盛況で、おおよその参加者は800名前後となりました。

●緊急セミナー「SARS」

司会 柴 孝也 教授

1. 開会の挨拶
東京慈恵会医科大学附属病院
大石 幸彦 院長
2. SARSの臨床像
東京慈恵会医科大学附属病院 感染制御部
吉田 正樹 助手
3. SARSの現状と国立感染症研究所での対応
国立感染症研究所 感染症情報センター
東京慈恵会医科大学 岡部 信彦 客員教授
4. 香港での体験と杏林大学病院でのSARSの感染対策
杏林大学医学部感染症学教室
小林 治 講師
5. 慈恵医大におけるSARSの感染対策
東京慈恵会医科大学附属病院 感染制御部
小野寺 昭一 教授

司会進行は柴教授が務められ、大石院長の挨拶により開会となりました。はじめに吉田助手より文献を中心にWHOでの集計などの報告がありました。続いて、岡部客員教授より、今、緊急でどうしても行かなければならない人以外の海外旅行は慎むべきである旨が述べられ、SARSの感染力は、個人差があり、高齢者の方の死亡率が極めて高いと示されました。そして、対策の基本として、手を良く洗い、うがいをするなどが強調されました。引き続いて「香港での体験から」杏林大学の小林講師より、4月上旬に香港で実際に診療にあたられた経験および杏林大学の対応策などが報告されました。最後に慈恵医大における感染対策について、小野寺教授より、本学の対応策として7Eに陰圧室を2室設け、看護スタッフの体制も整えていることなど、本学感

染対策の現況が報告されました。その後、各機関とテレビ会議システムを用いての活発なディスカッションが行われました。

このSARSは、当初、中国、香港およびベトナム・ハノイから報告され、カナダ(トロント)へ拡がりを見せ、中国、香港そして台湾全土を中心に症例数は増加しています。不明な点も依然として多いといわれていますが、この間に多くのことが解明されつつあるものの、患者に関係した医療従事者および患者の家族等も多く発症しており、環境感染および院内感染としても十分注意しなければなりません。主要な感染経路としては飛沫感染ではないかと想定され、致死率は14~15%程度と推計されています。4月16日、WHOによりコロナウイルス科に属する新しいウイルスが原因と発表され、世界中の多くの保健医療関係者が危機感を持ち、この健康危機に立ち向かっている現況にあります。このような中、本学におけるこのテレビ会議システムを利用した緊急セミナー「重症急性呼吸器症候群(SARS)」は大変有意義なセミナーとなりました。ちなみに6月20日現在、「世界で8,461名が感染し、804名(9.5%)が死亡した」とWHOは報告しています。

<SARSに関する主な情報サイト>

- 国立感染症研究所
<http://idsc.nih.go.jp/others/urgent/update.html>
- 厚生労働省
<http://www.mhlw.go.jp/topics/2003/03/tp0318-1.html>
- 海外渡航者のための感染症情報
<http://www.forth.go.jp/forth/main.html>
- 日本貿易振興会
http://www.jetro.go.jp/ref/sars_top.html
- 日本医師会感染症危機管理対策室
<http://www.med.or.jp/kansen/sars/>
- 東京都健康安全研究センター
<http://www.tokyo-eiken.go.jp/IDSC/SARS/sars-topics.html>
- 外務省・海外安全ホームページ
<http://www.pubanzen.mofa.go.jp/>



▲最新設備を利用したセミナー

大盛況となった会場▶

現役部員の努力と卒業生の支援による功績

樋口杯受賞クラブ紹介～水泳部～

昨年、我々水泳部は学内の運動部・文化部の中で最も活躍した部活動に贈られる樋口一成杯を初受賞しました。1977年から始まりましたこの賞は慈恵の中で名誉ある賞として、各部活「この賞をわが部に」と通年の活動に励んでいます。その中でわが水泳部が受賞できたことは大変喜ばしいと同時に、これからの部活動に対して身の引き締まる思いがいたします。

昨年は東日本医歯薬看護学生水泳競技大会、東日本医科学生総合体育大会水泳競技で男子総合優勝を果たし、関東看護学生水泳競技大会においても準優勝を果たしました。この功績は現役部員の努力と卒業された方々のご支援・ご指導、大学の多大なるご援助があったからであります。我々



▲樋口杯を受賞した水泳部員

水泳部のこの輝かしい記録と樋口杯受賞は、水泳部に関わった人々全員で勝ち取ったものだと考えております。

今年度も昨年の記録に満足することなく、邁進していきたいと思っております。そして今年度の樋口杯を受賞できるように頑張りたいと思っております。

医学科5年 八反丸 善康

受験生の大きな注目を集める

平成15年度医学科入試報告

平成15年度医学科入試は従来の方法を大幅に変更し、前期試験(募集人員50名、一次試験1月28日、二次試験2月8日・9日)と後期試験(50名、2月25日、3月7日)の2回に分けて実施されました。これは「入学試験あり方検討委員会答申(平成13年2月22日、委員長：栗原敏教授)」に基づき「医学科入学試験改善実行委員会(委員長：高津光洋教授)」が具体案の検討を行い、平成13年7月23日の医学科定例教授会議において承認され実行されることになったものです。検討の過程では外部に調査・分析を依頼し、その結果をシンポジウムで公開するなど画期

的な方法がとられました。従来、本学は試験日を国公立大学と併願できない2月25日に設定し、慈恵医大を第1志望とする受験生を対象に入試を行ってききましたが、医学を志す受験生を広く求めるために前期試験を設定し、また本学を第1志望とする受験生のために後期試験を設定したものであります。この変更は受験生の大きな注目を集め、前期志願者2,495名(合格者50名)、後期志願者2,070名(合格者53名)という前例のない高い競争率となりました。

なお、平成16年度に向けての大学説明会・オープンキャンパスは下記のとおり予定しております。

大学説明会・オープンキャンパスのお知らせ

医学科	大学説明会	開催日時：平成15年8月9日(土) 13:30～16:20 場 所：本学西新橋キャンパス・中央講堂
	オープンキャンパス	開催日時：第1回 平成15年7月26日(土) 14:00～15:30 第2回 平成15年9月6日(土) 14:00～15:30 第3回 平成15年10月4日(土) 14:00～15:30 第4回 平成15年11月8日(土) 14:00～15:30 場 所：本学西新橋キャンパス・大学1号館講堂 ※大学説明会、オープンキャンパスとも参加自由です。
看護学科	大学説明会	開催日時：平成15年7月22日(火) 14:00～16:00 参加希望者は事前に申し込みが必要となります。
	大学見学	ご希望の方は看護学科学務課へお問い合わせください。 医学部看護学科学務課 03-3480-1151(内線2611)

高い資質をもつ看護実践者の育成を目指して

看護学科カリキュラム改正 —生活者としての人をケアする視点で—

平成4年に開学した看護学科は、10年間の教育実践をもとに平成15年から新カリキュラムをスタートさせました。この間、大学設置基準の大綱化、保健婦助産婦看護婦養成所指定規則等の一部改正など教育環境の変化や開学時には14校であった看護大学も105校になり、各大学が特徴あるカリキュラムを志向している状況にあります。そこで、本学科では平成9年より改正に向けての準備に入りまし

た。カリキュラムで最も重要な看護学科の教育理念は学祖の哲学が継承できるよう“高い資質をもった看護実践者の育成”としました。具体的には、人々の生活・健康の質を高めるために、科学的な根拠に基づいた看護実践力、人間を総合的に理解する力、専門職的倫理、心豊かな人間性、チーム医療の中で看護の主体性を発揮する力、看護学の発展に貢献できる創造性豊かな看護者を目指しています。

この様な方向に向かってのカリキュラム作成は、「人

間」「健康」「環境」「看護」を主要概念とし、この概念の意味することを教員相互で話し合い、教育内容を抽出し、科目を設定しました。

カリキュラム全体は「人間の理解」「生活の理解」「看護の理解」を基本要素とし、1年次から4年次にかけてこれらを学ぶようにしました。また、看護のベースとなる科目を「看護基礎科学」とし、看護に関する科目を「看護専門科学」としました。「看護基礎科学」では、人間と生活、健康と環境、人間と健康の領域を設定し科目を決定しました。また、「看護専門科学」の領域は、生活援助の基礎、生活援助の方法、生活援助の実践、生活援助の展開とし、生活者としての人をケアすることを主軸としたカリキュラムとしました。

慈恵の理念を礎に、世代を超えて形成、受け継がれてきている慈恵の伝統を、看護教育の中で展開していこうとする教員の強い意思は、カリキュラム改正に向けての大きな力となると実感しています。

看護学科・教学委員長 芳賀 佐和子

看護の向上と卒業生の交流のために

同窓会看護学科支部発足

東京慈恵会医科大学医学部看護学科は開設11周年を迎え、平成15年3月に第8期生32名が卒業し、同窓生は総勢250名余となりました。卒業生は病院関係だけではなく、各方面で活躍されていますが、ここで看護の向上と卒業された方々の交流を目的として東京慈恵会医科大学同窓会看護学科支部を立ち上げる運びとなり、去る平成15年3月8日に総会が開催されました。

当日、総会において、看護学科支部の役員および連絡委員の選出が行われました。その後、この発足を記念して初代学科長であり、名誉学科長である吉武香代子先生による講演会「看護を考える—私のあゆみから」が開催されました。講演内容は、吉武名誉学科長の今までの経験から今後の看護のあり方について約1時間に渡りました。聴講された方々からは、学生時代の授業とは異なり、今後の看護のあり方など大変参考になったとの意見が述べられておりました。続いて、学生食堂・ベラにおいて懇親会が開催され、和やかなうちに散会とな

りました。

なお、慈恵医大同窓会に新たに看護学科支部が加わり、同窓会では84の支部において今後活動されることになりました。



▲看護学科支部役員の方皆さん



▲同窓会発足記念講演

崇高な槍と満点の星空のもとで54年目の開設 慈恵医大槍ヶ岳夏季診療所開設

各大学医学部は、毎年夏の登山シーズンにあわせて北アルプスの山小屋に診療所を開設しています。慈恵医大では、北アルプスの中でも年間五万人以上の登山者が訪れるほど人気のある槍ヶ岳の肩にある山荘（標高3,060m）に、昭和25年に開設して以来今日まで毎夏診療所を開いています。本年は開設して54年目にあたります。夏季診療所（7月20日～8月20日）は慈恵医大が開設し、多くのボランティアの医師、看護師、学生によって支えられています。昨年は昭和一ヶ々の医師が4名も入所して下さいました。診療所は、大学はもとより岐阜県上宝村や槍ヶ岳山荘からの暖かいご支援のもとに、慈恵医大山岳部・山の会（山岳部OB会）によって運営されています。

最近では登山道が整備され情報も豊かになり大きな事故は少なくなりましたが、中高年齢登山者の増加に伴い高山病や整形外科的疾患が増加しています。緊急時にはヘリコプターを要請することもあります。毎年150名前後の患者さんが夏季診療所で受診されます。最近、診療所では重篤な疾患に対応するために遠隔医療支援システムの構築を試みています。人工衛星を用いたテレビ会議システム、光ファイバーを用いたギガビ



▲槍ヶ岳

▼慈恵医大槍ヶ岳診療所

ットネットワークなどにより、槍ヶ岳診療所から慈恵医大附属病院、信州大学附属病院や豊科日赤病院に動画像を伝送し、専門医からの医療支援を受けることが可能になってきました。遠隔医療支援システムの導入は、より充実した山岳医療を可能にするばかりかボランティアに安心感を与えてくれます。診療所の入所者の充足率は高く評判も良いですが、ボランティア医師の確保には毎年苦勞しています。今後も充実した診療所を維持するために、皆様の更なるご支援を期待するとともに遠隔医療システムが恒久的に稼働するように願っています。

上高地の梓川と穂高の山々、槍沢の残雪と時間を惜しむかのように咲き乱れる高山植物、崇高な槍、夜は満天の星空に横たわる天の川を流れる星、はるか遠くに燈る町の灯り。

皆さん、夏でもストーブを焚いている槍ヶ岳診療所に入所しませんか。

診療所管理者 斎藤 三郎（分子免疫学研究所・助教授）

新入生 歓迎
慈恵医大夏季
槍ヶ岳診療所
学生班員募集
7月20日～8月20日
連絡先
診療所係り 斎藤 三郎
新橋校 2356

▲学生班員募集がスター

緊張感が漂いながらも真摯な態度で取り組む OSCE試験

平成15年1月11日、大学1号館8階OSCEセンターにおいて医学科4年生、および2月20日、21日には5年生のOSCE試験（Objective Structured Clinical Examination）が行われました。この試験は基本的な臨床能力をはじめ特に臨床技術を実際に行い、正しく行えるかどうかをチェックするも

のです。ここでは、1月11日に行われました4年生の試験経過を報告致します。

この日は、8階OSCEセンターのそれぞれの部屋を試験会場に7つのステーションと呼ばれる仮設の診療室が設けられ、そこへドクター役の学生が1ステーション試験時間5分をかけて廻ります。この順繰りで廻る学生の評価は、2名の評価者（医師）が評価基準に従って行います。白衣姿に聴診器を持ち、診察にあたる各々の学生の表情には緊張感が漂いながらも真摯な態度で取り組まれていました。また、試験を終え、評価者より講評を受ける姿から「明日の医療を担う医師」が現れているという医学科4年生のOSCE試験でありました。



▲緊張感漂うOSCE試験
厳格に評価される臨床技術▶

医師・看護師の国家試験結果発表

第97回医師国家試験・第92回看護師国家試験・第89回保健師国家試験

第97回医師国家試験の結果が、去る4月24日に発表されました。合格者の総数は7,721名で、合格率は90.3%でした。平成15年3月に本学を卒業した新卒業生104名が試験に臨み、100名が合格、卒業後に受験した2名も、合格を果たしました。この

度の試験において本学の合格率は96.2%となりました。

また、第92回看護師国家試験および第89回保健師国家試験の結果も発表されました。各校の合格状況は下表の通りです。

■第97回医師国家試験合格状況

区分	校数	総数			新卒業生(平成15年3月卒)			既卒業生		
		受験者数(名)	合格者数(名)	合格率(%)	受験者数(名)	合格者数(名)	合格率(%)	受験者数(名)	合格者数(名)	合格率(%)
本学		106	102	96.2	104	100	96.2	2	2	100.0
		91	89	97.8	90	88	97.8	1	1	100.0
国立	43	4,485	4,100	91.4	4,122	3,934	95.4	363	166	45.7
		4,557	4,198	92.1	4,198	4,001	95.3	359	197	54.9
公立	8	687	646	94.0	644	623	96.7	43	23	53.5
		726	686	94.5	667	645	96.7	59	41	69.5
私立	29	3,348	2,960	88.4	2,923	2,736	93.6	425	224	52.7
		3,411	2,981	87.4	2,947	2,728	92.6	464	253	54.5
その他	—	31	15	48.4	20	11	55.0	11	4	36.4
		25	16	64.0	19	13	68.4	6	3	50.0
合計	80	8,551	7,721	90.3	7,709	7,304	94.7	842	417	49.5
		8,719	7,881	90.4	7,831	7,387	94.3	888	494	55.6

■第92回看護師国家試験合格状況

	医学部看護学科	新橋	青戸	第三	柏
受験者数(名)	32	67	33	36	72
合格者数(名)	32	67	33	35	71
合格率(%)	100.0	100.0	100.0	97.2	98.6

■第89回保健師国家試験合格状況

	受験者数(名)	合格者数(名)	合格率(%)
医学部看護学科	32	26	81.3

真夏の食生活

附属病院 栄養部 課長補佐 林 進

高温多湿の夏は、暑さをしのぐために沢山の飲料と共に、冷たくて口当たりの良いひやむぎやそうめんなどが好まれますが、蛋白質やビタミン・ミネラルが不足しがちになります。ビタミン類が不足すると、体内での炭水化物の代謝がスムーズに進まなくなり、体内でエネルギーを十分に作れなくなるので疲労感が強くなります。同時に胃腸の働きが弱くなり、食欲がなくなって十分に食べることができなくなるので、ますますビタミン不足が進み悪循環におちいります。

夏ばて防止策として色々なビタミンの摂取が上げられますが、特にビタミンB1を多く含む食品（右表）を多く取り入れることをお勧めします。ビタミンB1は、体内で炭水化物をエネルギーに変換するのに必要で、夏ばて防止にはもってこいのビタミンと言われます。また、摂取したビタミンB1の吸収率をさらに高める物質として、アリシンを含む食品と一緒に摂ると良いとされています。アリシンはんにくやニラ・玉ねぎ・長ねぎに多く含まれておりますので、これらを多く使用する中華料理や台湾料理がおすすめです。おいを気にする方には、週末の献立に取り入れることをお勧めします。

具体的な夏ばて対策メニューとしては、焼き肉（豚）定食、ひれかつ定食、レバー定食、うな重、天ぷらそば、五目そば、チャーシュー麺、冷やし中華等がお薦めです。単品料理では、うなぎの蒲焼き、ニラの卵とじ、ニラ野菜の炒め物、チヂミ、ゴマ和え、レバーの焼き鳥、餃子、チンジャオロースー、胚芽パン・らい麦パンのトーストやサンドイッチ、茹で枝豆、川魚料理等もお薦めです。

夏場は弱っている胃腸を気遣い、十分な休養と睡眠をとりながらバランスの良い食事を心がけましょう。

■ビタミンB1を多く含む食品とビタミンB1量

食品名	一回の使用量(g)	ビタミンB1(mg)
豚ヒレ肉	80	0.96
うなぎ蒲焼き	100	0.75
豚ロース肉	80	0.55
鯉	100	0.46
干しそば	100	0.37
ロースハム	30	0.27
らい麦パン	120	0.19
鶏レバー	50	0.19
枝豆	50	0.16
そら豆	50	0.15
ごま	5	0.05

チーム医療の現場を知るために

医学科1年生オリエンテーション開催

平成15年4月4日より12日まで医学部医学科1年生のオリエンテーションが開催されました。内容は、病院は多くの職種の人たちとの共同で成り立っていることを知るため、チーム医療として機能している現場をめぐる学習するという病院見学実習が含まれています。また、救急蘇生術の実習なども行われました。病院見学実習では、チーム医療の実際を知るためには病院のすべての職種について見学することが望ましいのですが、日程などの関係からすべてという訳にはいかない為、第三病院における日々の業務のうち、看護部、中央検査部、薬剤部、放射線部、栄養部、メッセンジャー業務などの各部

署を見学、および体験し、その姿は熱心に取り組まれていました。



▲整備業務を体験



▲救急蘇生実習

各機関で地域住民対象のセミナー開催

●第13回青戸病院公開健康セミナー



▲総合司会の白井副院長

青戸病院では地域一般住民を対象に健康維持・病気の予防援助を目的に、身近で関心の高い生活習慣病や老化に伴う病態や疾患をテーマに取り上げ、5月と10月の年2回、葛飾区医師会共催、葛飾区後援にてJR亀有駅前の亀有地区センターで開催しています。回数を重ねるごとに地域住民の関心も高まり、参加者は増え続けています。



▲多数の参加者が集まった会場

●第13回第三病院公開健康セミナー

平成15年3月15日(土)、慈恵第三看護専門学校6階大教室にて「第13回第三病院公開健康セミナー」が開催されました。テーマは「男と女の更年期」で、産婦人科診療部長・木村英三講師、精神神経科診療部長・中村敬講師によるリレー講演となりました。木村英三講師は副題を「中高年を輝く女性として生きるために」と掲げ、女性更年期を中心とした講演内容でした。続いて、中村敬講師は副題を「中高年の心の危機」として、生活に密着した内容を講演されました。当日の参加は、66名あり、とても好評でした。

第13回公開健康セミナーは下記の通り開催されましたが、約230名の参加者があり、立ち見席が出るほどの盛況でした。

●平成15年5月17日(土) 午後2時～午後4時

●亀有地区センター

テーマ：「長寿への心構え」

演題

1. 「元気な心臓を保つには」

慈恵医大青戸病院 中央検査部 太田 真講師

2. 「脳血管を若く保つためには」

慈恵医大青戸病院 神経内科 森田 昌代助手

3. 「長寿落語」

林家 時蔵師匠

4. 「健康と食生活」

慈恵医大青戸病院 栄養部 二瓶 尚子氏

5. 「いきいきとした生活を送るために」

慈恵医大青戸病院 ソーシャルワーカー室 佐野奈津子氏

地域住民を対象とした第三病院公開セミナーも第1回開催(平成11年3月6日)から13回と数を重ね、総数1,234名の参加が得られ、定着されつつあります。



▲中村講師



▲木村講師



▲講演を聴く参加者の皆さん

コンピュータグラフィックスを駆使した人体の四次元画像公開される

「サイバーヒューマン」公開 -高次元医用画像工学研究所の研究成果が日本科学未来館にて展示-

人間の体内の様子を精密に描いた四次元画像「サイバーヒューマン」が文部科学省所管、日本科学未来館5階VRシアターにて公開されています。これは、最新の医用画像技術を駆使して製作された世界一精密な「生きている人体」の四次元モデルを基軸に研究成果を大型スクリーン映像により展示しているものです。開発にあたっては、本学、高次元医用画像工学研究所・鈴木直樹所長と日本科学未来館が平成14年度より準備を開始し、平成15年5月4日(日)より同館で公開が始まりました。四次元人体モデルは、20代の健康な女性をMRI(磁気共鳴画像化装置)で撮影したデータを基に、コンピュータグラフィックスで作製されており、骨格と筋肉の働きや心臓の動く様子など人体の立体的な様子が精密に現されています。

生体の内部を見る技術、つまり医用画像技術の歴史は100年をわずかに超えましたが、この歴史の過程で、最初は二次元的な画像として見ていた人間の体をより立体的に、かつ時間変化も加えた四次元現象としてなんととらえられるようになったのは、21世紀を迎えたここ最近とも言えます。今回公開されている「サイバーヒューマン」の作製で高次元医用画像工学研究所の研究チームが挑戦し

たことは、「生きている人体」を、形態だけでなく心臓の拍動や関節の動きなどの機能までを含めた人体構造としてどこまで詳細に構築できるかということでした」と鈴木所長は後述されていました。この技術は、現代の医学分野の新しい手術法、新しい治療法開発などにも応用され、この様子もあわせて公開されています。なお、本内容の公開は6月25日(水)以降、毎日午後3回上映を予定しておりますが、公開日、時間についての詳細は、同館のホームページ <http://www.miraikan.jst.go.jp>にてご確認ください。

●日本科学未来館

東京都江東区青海2-41(電話)03-3570-9151

開館時間:10:00~17:00

休館日:毎週火曜日(祝日、ゴールデンウィーク、

春・夏・冬休み期間は開館)、12/28~1/1

入館料:大人500円、小人(18歳以下)200円

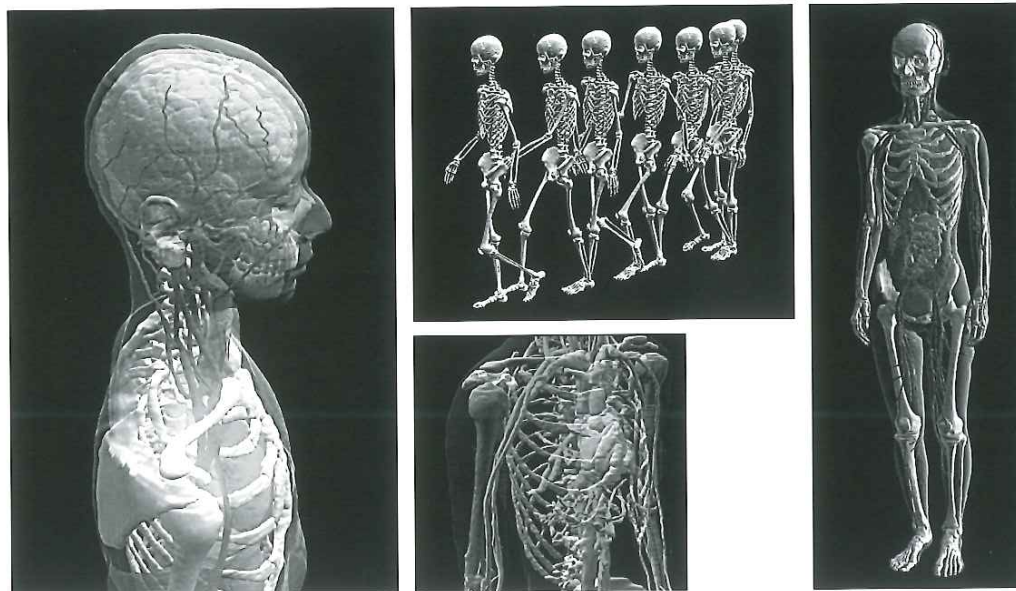
※土曜日は小人(18歳以下)無料

交通(電車):新交通ゆりかもめ

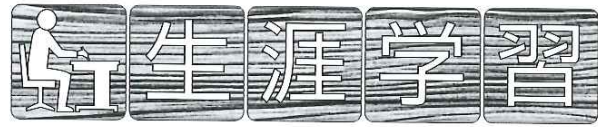
「船の科学館駅」より徒歩5分

東京臨海高速鉄道りんかい線

「東京テレポート駅」より徒歩15分



▲上映されている「サイバーヒューマン」の四次元画像



生涯学習センターをはじめとする各機関では、生涯学習のためにセミナーやフォーラムなどさまざまな取り組みを行っています。

慈恵医大生涯学習センター

●慈恵医大生涯学習セミナー

月例セミナーと夏季セミナーを開催し、受講者には「日本医師会生涯教育講座参加証(シール)」を交付しています。

■月例セミナー／開催日時:毎月第2土曜日(休日を除く)
16:00~18:00(但し、1月、8月、10月、12月を除く)

回数	月日(曜)	テーマ	講師名	会場
132	7月12日(土)	睡眠障害の診断と治療	精神神経科 伊東 洋 助教授 (司会:港区 安藤 俊裕 先生)	慈恵大病院 中央棟8階会議室
133	9月13日(土)	変形性膝関節症の病態と薬物治療	整形外科 丸毛 啓史 助教授 (司会:江戸川区 国府田 守雄 先生)	慈恵大病院 中央棟8階会議室
134	11月8日(土)	膠原病の多彩な臓器病変	リウマチ・膠原病内科 山田 昭夫 教授 (司会:板橋区 安田 榮一 先生)	慈恵大病院 中央棟8階会議室

(主催)慈恵医大生涯学習センター

■夏季セミナー

開催日時:平成15年8月2日(土) 16:00~18:30
場 所:東京慈恵会医科大学 大学1号館講堂3階
テ マ:ストレスと病気

(主催)慈恵医大生涯学習センター

(共催)慈恵医大同窓会、慈恵医師会、港区医師会

◎お問合せ先:慈恵医大生涯学習センター

電話:03-3433-1111(大代表)内線2634

慈恵医師会

●慈恵医師会産業医研修会

(募集定員に達しましたので、受付は終了しました。)

開催日時:平成15年7月19日(土) 13:00~18:15
場 所:東京慈恵会医科大学 中央講堂

(主催)慈恵医師会、(共催)東京都医師会で開催し、受講者には「日本医師会産業医認定シール」を交付しています。

◎お問合せ先:慈恵医師会

電話:03-3433-1111(大代表)内線2636

青戸病院

●青戸病院公開健康セミナー

葛飾区医師会共催、葛飾区後援にて区民を対象に公開健康セミナーを毎年5月と10月に開催しています。

●青戸病院症例検討会(CPC)

近隣医師と教職員を対象に年3~4回症例検討会を開催しています。

●メディカルカンファレンス

近隣医師と教職員を対象に年2回メディカルカンファレンスを開催しています。

◎お問合せ先:青戸病院 総務課

電話:03-3603-2111(大代表)内線2671

第三病院

●第三病院公開健康セミナー

年3回、第三看護専門学校大教室にて、市民を対象に健康講座を開催しています。

回数	月日(曜)	時間	テーマ	講師名
第15回	10月開催予定	14:00~15:30	眼の健康	眼科 常岡 寛 助教授

※開催内容については、変更することもありますので、ご了承ください。

●調布市市内大学公開講座

毎年11月末から12月ごろ、調布市文化会館たづくり大会議場にて、市民を対象に健康講座を開催しています。

●第三病院医療連携フォーラム

近隣医師と教職員を対象に、最新医療や医療問題その他のフォーラムを開催しています。

◎お問合せ先:第三病院 総務課

電話:03-3480-1151(大代表)内線3711

柏病院

●柏病院症例検討会(CPC)

近隣医師と教職員を対象に、6月と11月の年2回症例検討会を開催しています。

●柏病院地域医療連携フォーラム

近隣医師と教職員を対象に、地域医療の連携についてフォーラムを開催しています。

◎お問合せ先:柏病院 総務課

電話:04-7164-1111(大代表)内線2185

JIKEI BULLETIN BOARD

大学公報のまとめ

行事

BULLETIN BOARD

1. 新年挨拶交歓会が1月6日(月)午後3時より、高木2号館地下1階教職員食堂に於いて開催された。

1. 平成14年度第5回学位記授与式が1月20日(月)午後2時30分より、学長応接室に於いて挙行された。
授与された者 論文提出者 6名
計 6名

1. 平成15年度入学試験が次の通り行われた。

学科	前期	後期	第一次試験	第二次試験	合格者
医学科	1月28日(火)	2月8日(土)	1月28日(火)	2月8日(土)	103名
		2月25日(火)	2月25日(火)	3月7日(金)	
看護学科	2月10日(月)	2月14日(金)	2月10日(月)	2月14日(金)	46名

1. 大野典也教授、新村真人教授の退任記念講義が1月31日(金)午後2時30分より、大学1号館講堂に於いて行われた。

1. 平成15年度大学院入学試験が次の通り行われた。
2月15日(土) 第二次募集
合格者 14名

1. 平成14年度第6回学位記授与式が2月17日(月)午後2時30分より、学長応接室に於いて挙行された。
授与された者 大学院修了者 2名
論文提出者 6名
計 8名

1. 献体者に対して文部大臣より感謝状が贈呈され、2月18日(火)、高木会館B会議室に於いて伝達式が行われた。

1. 平成14年度慈恵看護専門学校卒業式が次の通り挙行された。

卒業式	卒業生
3月14日(金) 青戸看護専門学校	33名
第三看護専門学校	36名
柏看護専門学校	72名

1. 第78回医学科卒業式、第8回看護学科卒業式が次の通り挙行された。

卒業式	卒業生
3月20日(木) 医学科	105名
看護学科	32名

1. 平成15年度大学院研究科入学式が次の通り挙行された。
4月1日(火) 入学者 29名

1. 平成15年度入学式、始業式が次の通り挙行された。

入学式	入学者
4月3日(木) 医学部医学科	103名
医学部看護学科	31名

1. 看護専門学校入学式が次の通り挙行された。

入学式	入学者
4月5日(土) 青戸看護専門学校	38名
第三看護専門学校	50名
柏看護専門学校	80名

1. 平成15年度第1回学位記授与式が4月21日(月)午後2時より、学長応接室に於いて挙行された。
授与された者 大学院修了者 1名
論文提出者 9名
計 10名

■平成14年度決算について

平成14年度の決算は、帰属収入758億円に対し消費支出743億円となり、帰属収支差額は15億円となりました。これを、前年度と比較いたしますと38億円の減少となりました。

消費収支計算書では、帰属収入が前年度に比べ20億円減収となりました。これは社会保険診療報酬の引下げ等、国の医療費抑制策による影響を受け医療収入が減少したものです。また平成14年度は補助金付きの特別大きな設備投資がありませんでしたので、補助金の減少が大きく影響したものです。

一方、消費支出の総額は743億円で、前年比18億円の増加となりました。これは人件費の増加3.6億円、法人税法の改正に準拠した学校法人会計基準により、固定資産(建物)の耐用年数を60年から50年に短縮したことに伴う減価償却費の増加2.6億円、並びに大学1号館など大型設備の本格稼働による委託費、諸経費の増加が主な要因です。

貸借対照表では、ABC棟改修工事7.8億円、第三病院手術棟新築工事7.5億円等を実施し、固定資産は24億円増加しました。これらの固定資産の計上分などで基本金を65億円組み入れました。

平成14年度消費収支計算書

自平成14年4月1日 至平成15年3月31日

消費支出の部		消費収入の部	
科目	金額	科目	金額
事業経費	68,981,722,066	事業収入	69,813,294,350
人件費	33,180,642,745	授業料その他収入	3,048,667,000
教育研究費	1,150,541,279	医療収入	64,813,623,408
奨学金	112,400,000	衛生管理収入	520,096,024
医療経費	22,845,629,757	雑収入	1,430,907,918
消耗品費	1,121,733,622		
委託費	3,962,131,384		
光熱水費	1,891,206,313		
修繕費	997,508,525		
諸経費	3,719,928,441		
事業外経費	769,390,649	事業外収入	6,066,684,776
支払利息	435,138,595	受取利息	29,024,606
除却損	277,833,895	受取配当金	2,302,748
徴収不能額	56,418,159	有価証券利息	14,026,847
		国庫補助金	4,000,014,000
償却勘定	4,566,699,176	地方公共団体補助金	325,356,454
建物	2,200,802,212	寄付金	1,695,960,121
設備	706,052,856		
構築物	30,212,192		
教具	422,758,552		
医療器械	1,127,957,658		
一般備品	78,915,706		
合計	74,317,811,891	合計	75,879,979,126
消費支出の部合計	74,317,811,891	帰属収入の部合計	75,879,979,126
消費支出超過額	△4,956,810,900	基本金組入額合計	△6,518,978,135
合計	69,361,000,991	合計	69,361,000,991

(単位:円)

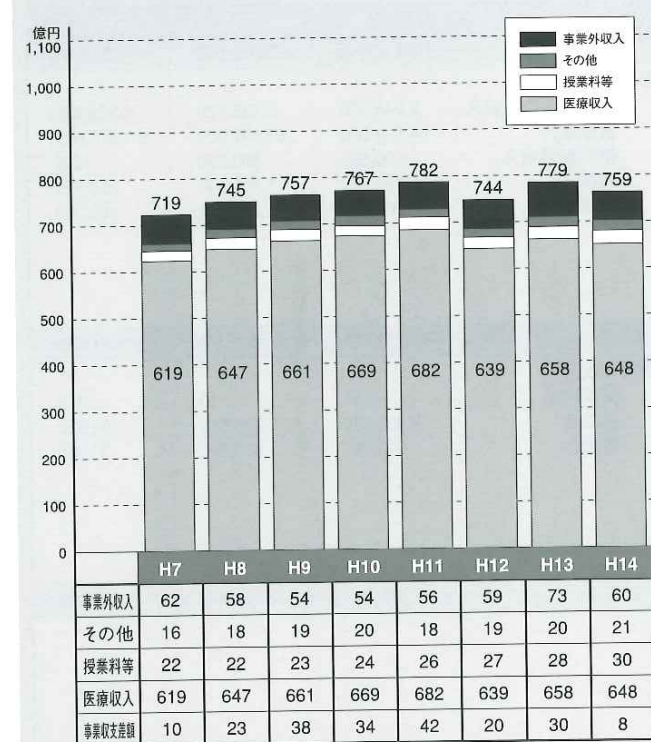
平成14年度貸借対照表

平成15年3月31日現在

借方		貸方	
科目	金額	科目	金額
流動資産	41,026,573,436	流動負債	12,001,861,020
現金	116,592,659	未払金	10,834,350,334
預金	30,173,114,204	預り金	415,540,452
振替貯金	60,078,810	前受金	604,620,646
有価証券	22,563,220	保証金	147,349,588
貸付金	233,646,587		
仮払金	81,972,374		
未収入金	10,278,431,601		
貯蔵品	60,173,981		
固定資産	102,258,376,359	固定負債	40,022,620,612
土地	6,331,512,574	長期借入金	23,483,925,000
建物	73,231,197,117	退職給与引当金	16,393,978,312
設備	4,345,662,038	長期未払金	144,717,300
構築物	379,252,209		
教具	3,592,271,794		
医療器械	7,624,327,538		
一般備品	539,679,488		
図書	2,265,270,162		
放射性同位元素	28,058,938		
施設利用権	362,403,600		
建物仮勘定	1,526,888,000		
有価証券	2,030,000,000		
車輛	1,852,901		
		基本金	91,260,468,163
		基本金	129,490,619,106
		翌年度繰越	
		消費支出超過額	△38,230,150,943
合計	143,284,949,795	合計	143,284,949,795

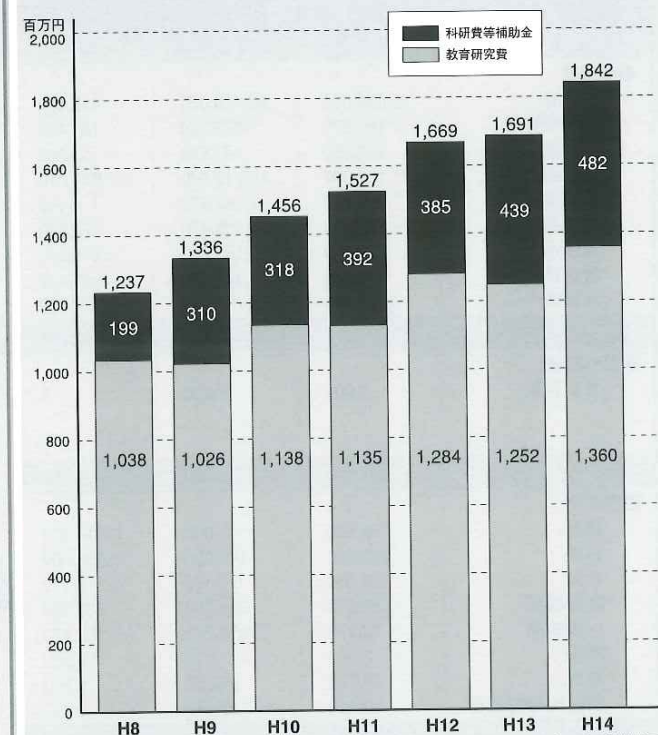
(単位:円)

帰属収入の推移



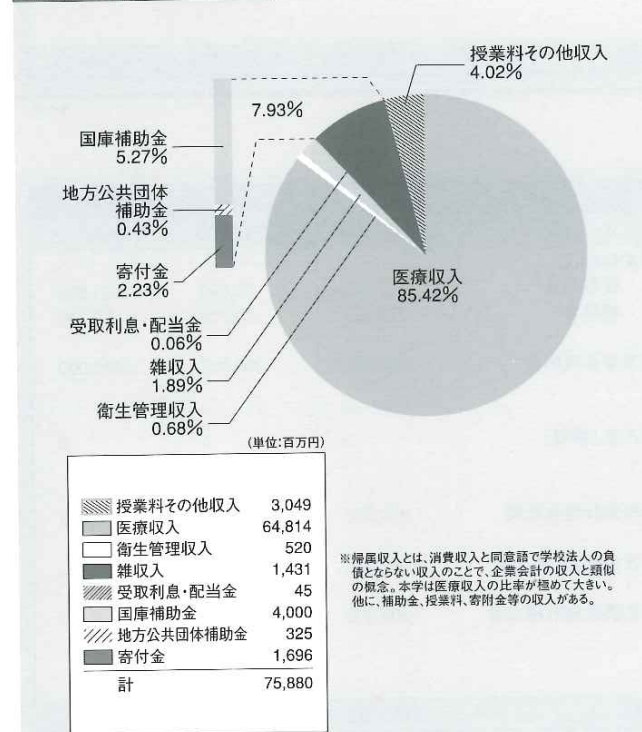
※事業収支差額は、事業収入から事業経費を差し引いた実質的な収益状況を表した償却前の収支である。

本学が教育や研究に充当した費用の推移



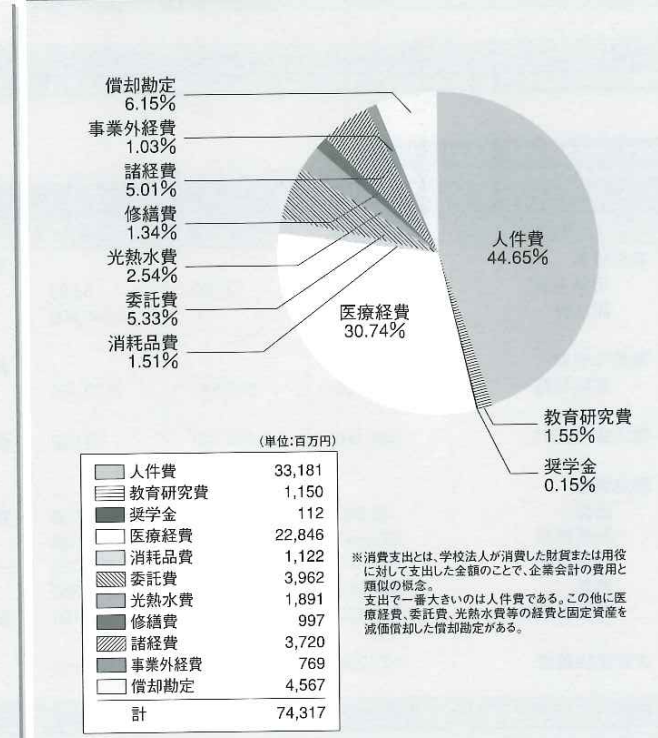
※ここで用いた「教育研究費」とは、各講座・教室等で購入した教員等固定資産に分類されるものも含めた実質的教育研究に供された費用の合計を示している。「科研費等補助金」とは、文部科学省の日本学術振興会、厚生労働省の科学研究費、その他公的機関からの委託研究費等の合計額である。

帰属収入の構成



※帰属収入とは、消費収入と同義語で学校法人の負債としない収入のことで、企業会計の収入と類似の概念。本学は医療収入の比率が高いため、他に、補助金、授業料、寄付金等の収入がある。

消費支出の構成



※消費支出とは、学校法人が消費した財貨または労務に対して支出した金額のことで、企業会計の費用と類似の概念。支出で一番大きいのは人件費である。この他に医療経費、委託費、光熱水費等の経費と固定資産を減価償却した償却勘定がある。

■平成15年度予算

平成15年度一般会計予算書

支 出				収 入			
科目	14年度予算	15年度予算	比較	科目	14年度予算	15年度予算	比較
事業経費				事業収入			
人件費	32,670,000	33,149,000	479,000	授業料その他収入	2,946,370	2,716,720	△229,650
教育研究費	1,180,870	1,373,270	192,400	医療収入	64,514,000	62,957,000	△1,557,000
奨学金	134,250	147,510	13,260	衛生管理収入	500,690	500,890	200
医療経費	21,153,880	19,212,670	△1,941,210	雑収入	1,054,970	1,305,440	250,470
消耗品費	1,078,810	1,082,970	4,160	管理棟収入	203,400	117,700	△85,700
委託費	4,135,900	4,308,470	172,570				
光熱水費	2,269,980	2,151,650	△118,330				
営繕費	871,060	821,620	△49,440				
諸経費	3,599,340	3,773,660	174,320				
計	67,094,090	66,020,820	△1,073,270	計	69,219,430	67,597,750	△1,621,680
事業外経費				事業外収入			
支払利息	8,000	8,000	0	受取利息	350	10	△340
				補助金	3,805,330	3,700,810	△104,520
				寄附金	500,000	530,000	30,000
計	8,000	8,000	0	計	4,305,680	4,230,820	△74,860
固定資産							
建物	156,500	46,000	△110,500				
設備	305,000	147,000	△158,000				
教具	389,230	76,460	△312,770				
医療器械	626,670	830,000	203,330				
一般備品	72,570	434,700	362,130				
車両	3,000	0	△3,000				
図書	88,720	94,220	5,500				
放射性同位元素	10,400	12,850	2,450				
計	1,652,090	1,641,230	△10,860				
借入金(返済)	1,900,000	1,900,000	0	借入金(新規)	1,900,000	1,900,000	0
予備費	300,000	300,000	0	一般会計資金取崩	1,900,000	0	△1,900,000
記念事業会計積立金	300,000	300,000	0				
特別会計へ繰入金	6,070,930	3,558,520	△2,512,410				
計	8,570,930	6,058,520	△2,512,410				
合計	77,325,110	73,728,570	△3,596,540	合計	77,325,110	73,728,570	△3,596,540

(単位:千円)

平成15年度特別会計予算書

支 出				収 入			
科目	14年度予算	15年度予算	比較	科目	14年度予算	15年度予算	比較
事業経費				事業外収入			
消耗品費	6,100	13,000	6,900	受取利息	57,178	25,640	△31,538
諸経費	140,000	0	△140,000	補助金	173,470	170,730	△2,740
事業外経費				記念事業寄附金	800,000	200,000	△600,000
支払利息	476,700	397,520	△79,180				
借入金(返済)	1,984,180	1,988,100	3,920	借入金(新規)	0	0	0
固定資産				特別会計預金取崩	1,000,000	1,100,000	100,000
設備	18,000	0	△18,000	一般会計より繰入金	6,070,930	3,558,520	△2,512,410
医療器械	573,440	854,140	277,700	記念事業会計積立金	300,000	300,000	0
一般備品	261,000	5,000	△256,000				
教具	894,760	0	△894,760				
建設仮勘定	3,920,100	2,100,000	△1,820,100				
次年度繰越金	127,298	130	△127,168				
合計	8,401,578	5,354,890	△3,046,688	合計	8,401,578	5,354,890	△3,046,688

(単位:千円)

平成15年度 科学研究費補助金配分内定一覧

1. 科学研究費補助金 配分状況一覧(新規採択+継続分)

研究種目	内定件数			配分予定額(千円)		
	15年度	14年度	13年度	15年度	14年度	13年度
特定領域研究	2	6	7	34,800	47,000	41,000
特別研究促進費	0	1	1	0	6,100	10,800
基盤研究(A)(2)	1	1	0	5,980	8,190	0
基盤研究(B)(1)	2	2	1	2,300	5,900	2,700
基盤研究(B)(2)	8	9	9	31,700	27,700	32,700
基盤研究(C)(1)	0	1	2	0	1,300	3,100
基盤研究(C)(2)	55	69	70	60,300	73,000	83,900
萌芽研究	6	11	9	10,000	13,800	7,300
若手研究(A)	0	0	—	0	0	—
若手研究(B)	68	90	—	84,100	97,200	—
奨励研究(A)	—	—	84	—	—	79,930
合計	142	190	183	229,180	280,190	261,430

*平成14年度より、奨励研究Aは若手研究(A)(B)に改組した。

2. 科学研究費補助金 配分状況一覧(新規採択分)

研究種目	申請件数	採択件数	採択率
特定推進研究	0	0	0.0%
特定領域研究	13	0	0.0%
基盤研究(S)	2	0	0.0%
基盤研究(A)	7	0	0.0%
基盤研究(B)	28	2	7.1%
基盤研究(C)	289	16	5.5%
萌芽研究	132	3	2.3%
若手研究(A)	2	0	0.0%
若手研究(B)	217	32	14.7%
合計	690	53	7.7%

平成14年12月1日(日)

1. 根津武彦 助教授に教授(定員外)を命ずる。

平成15年1月1日(水)

1. 田尻久雄 氏に附属柏病院内視鏡部診療部長(兼任)を命ずる。

平成15年3月31日(月)

1. 大野典也 教授は、定年により職を解く。
1. 新村真人 教授は、定年により職を解く。
1. 田中順一 教授(定員外)は、定年により職を解く。
1. 児島章 氏に附属青戸病院呼吸器・感染症内科診療部長を命ずる。
1. 近江禎子 氏に附属柏病院麻酔部診療部長を命ずる。

平成15年4月1日(火)

1. 近藤一博 氏に微生物学講座第1担当教授を命ずる。
1. 矢永勝彦 氏に外科学講座(消化器外科担当)教授を命ずる。
1. 岡部信彦 講師(非常勤)に客員教授を命ずる。
1. 阪本要一 助教授に教授(定員外)を命ずる。
1. 鈴木暁之 助教授に教授を命ずる。
1. 岡本仁 氏に医学部看護学科客員教授を命ずる。
1. 本田まりこ 氏に附属青戸病院皮膚科診療部長を命ずる。
1. 村上成之 氏に附属柏病院脳神経外科診療部長を命ずる。
1. 加藤智弘 氏に附属柏病院内視鏡部診療部長を命ずる。
1. 大野典也 氏に名誉教授の称号を贈る。
1. 新村真人 氏に名誉教授の称号を贈る。
1. 衛藤義勝 氏にDNA医学研究所所長を命ずる。

平成15年5月1日(木)

1. 益子健男 氏に附属柏病院心臓外科診療部長を命ずる。
1. 上出良一 氏に附属病院皮膚科診療部長代行を命ずる。

■大学院修了者

15.1.8	伊藤 寿啓	河野 毅
15.3.12	伊東 秀記	
15.3.26	豊田 千純子	小暮 太郎
15.5.14	草刈 洋一郎	
15.5.28	沈 勁松	

■学位論文通過者

14.12.11	小川 崇之			
14.12.25	斉藤 和恵			
15.1.8	青木 和弘	津久井充宏	松脇 由則	
15.1.22	大淵 敬太	仲泊 聡	長又 博之	
15.2.12	陳 勁一	岩木 久満子		
15.2.26	稲玉 英輔	和久津直美	峰崎 幸哲	
15.3.12	深田 雅之	相原 良子	川嶋 一成	藤原 千江子
15.3.26	松尾 光馬	中村 素行	藤ヶ崎純子	高梨 葉子
15.4.9	池田 恵一	阿部 和弘	山崎 知克	高木 優
15.4.23	牛尼 秀樹	甲斐 郁代	田中 康広	
15.5.14	舟木 清美	川村 佳子	野木 裕子	
15.5.28	岩野 圭二	砂川 好光	菅原 英和	

訃報

1. 同窓会顧問 三浦長英 先生(昭和27年卒・元本学評議員)は、1月8日逝去されました。
1. 飯倉洋治 先生(昭和41年卒・昭和大学医学部教授)は、2月18日逝去されました。
1. 同窓会中野支部長 須藤弘 先生(昭和23年卒)は、2月26日逝去されました。
1. 同窓会 本間滋 先生(昭和10年卒・元本学評議員)は、3月13日逝去されました。
1. 安藤博 元教授(定員外・外科学講座)は、5月21日逝去されました。

教員(医学科)

<p>■教授 微生物学第1 15.4.1 近藤 一博 内科学 15.4.1 阪本 要一 (外) 外科学 15.4.1 矢永 勝彦 麻酔科学 14.12.1 根津 武彦 (外) 15.4.1 鈴木 暁之 ■客員教授 小児科学 15.4.1 岡部 信彦 ■室長 神経生理学研究室 14.12.1 加藤 總夫 ■助教授 化学研究室 15.1.1 橋元 親夫 内科学 15.5.1 相原 一夫 (派) 小児科学 15.2.1 所 敏治 (外) 15.4.1 豊永 義清 (派) 外科学 15.2.1 大塚 正彦 (派) 脳神経外科学 15.4.1 村上 成之 皮膚科学 15.1.1 本田 まりこ (外) ■講師 内科学 14.12.1 大畑 充 鬼澤 信明 (非) 15.1.1 小倉 誠 15.2.1 児島 章 15.4.1 高橋 宏樹 山田 拓 増岡 秀一 小野寺達之 (無) 高添 一典 (無) 15.5.1 小川 和彦 土橋 史明 小児科学 14.12.1 林 良寛 15.1.1 大石 勉 (派) 外科学 15.4.1 栗原 英明 (派) 15.5.1 木下 智樹 脳神経外科学 15.4.1 山口 由太郎 (無) 形成外科学 14.12.1 岸 陽子 産婦人科学 15.4.1 山田 恭輔 大浦 調章 耳鼻咽喉科学 15.1.1 野原 修 (無)</p>	<p>心臓外科学 15.4.1 益子 健男 放射線医学 15.5.1 辰野 聡 麻酔科 15.1.1 正木 英二 ■助手 生理学第2宇宙航空医学研究室 15.4.1 豊島 裕子 熱帯医学 15.4.1 大西 弘太郎 分子遺伝学研究室 15.4.1 河野 毅 臨床検査医学 15.4.1 福島 慶子 内科学 14.12.1 真島 香代子 (無) 15.1.1 児島 章 吉田 正樹 井坂 剛 桑田 雅雄 島津 義久 (無) 石井 慎一 (無) 中澤 靖 (無) 15.4.1 長谷川 節 岡部 英明 深田 雅之 泉福 恭敬 橋本 昌也 村上 泰生 石川 威夫 荒巻 和彦 奥村 啓之 大塚 由美 陳 勁一 沼田 美和子 橋本 博子 間森 聡 田中 康之 伊藤 周二 松尾 七重 橋本 浩一 増岡 秀一 国枝 武彦 (無) 伊藤 保彦 (無) 石井 博尚 (無) 河野 優 (無) 川井 三恵 (無) 東 吉志 (無) 佐々木知也 (無) 多田 浩子 (無) 吉澤 海 (無) 北原 拓也 (無) 澤井 博典 (無) 杉浦 徹 (無) 安久 昌吾 精神医学 15.4.1 杉本 伸子 真鍋 貴子 (無) 小児科学 15.4.1 宮村 正和 有賀 賢典 吉成 聡</p>	<p>外科学 15.1.1 大平 寛典 小川 匡市 橋爪 由紀夫 斎藤 祐二 田部 昭博 (無) 小林 徹也 (無) 今井 貴 (無) 齋藤 良太 (無) 15.3.1 川崎 成郎 15.4.1 川代 健一 加藤 久美子 飯野 年男 石山 哲 整形外科学 15.1.1 望月 一成 平出 周 (無) 荒尾 誠 (無) 川口 泰彦 (無) 脳神経外科学 14.12.1 村山 雄一 15.1.1 佐口 隆之 15.2.1 荏原 正幸 15.4.1 大塚 俊宏 吉野 雅美 松原 修 (無) 15.5.1 石橋 敏寛 形成外科学 15.1.1 渡辺 規光 (無) 皮膚科学 15.1.1 太田 真山美 谷戸 克己 川瀬 正昭 (無) 15.4.1 井上 奈津彦 (無) 泌尿器科学 15.4.1 伊藤 博之 (無) 産婦人科学 15.4.1 鈴木 永純 上田 和 梅原 隆万 松本 江崎 松本 直樹 (無) 高野 浩邦 (無) 三沢 裕子 (無) 平間 正規 (無) 和知 敏樹 (無) 眼科学 15.1.1 久保 朗子 大原 こずえ 南部 典彦 田中 雄一郎 (無) 15.4.1 林 敏信 高橋 寧子 (無) 滝澤 寛重 (無) 耳鼻咽喉科学 15.1.1 松脇 由典 宇井 直也 吉川 亮 (無) 内田 亮 (無) 重田 泰史 (無) 高柳 博久 (無)</p>	<p>葉山 貴司 (無) 近澤 仁志 (無) 15.4.1 太田 史一 心臓外科学 14.12.1 松村 洋高 儀武 路雄 (無) 15.4.1 川田 典靖 (無) 放射線医学 15.1.1 大脇 和彦 15.3.1 白川 崇子 武内 弘明 (無) 15.4.1 中田 典生 リハビリテーション医学 15.1.1 植松 海雲 15.4.1 高田 耕太郎 内視鏡科 15.4.1 友田 一字 斎藤 彰一 歯科 15.4.1 児玉 純子 ■医員 内科学 15.1.1 奥田 文二 15.4.1 松平 透 小澤 律子 三村 秀毅 西尾 慶之 丸山 之雄 井上 寧 安田 千穂 荒川 泰弘 館野 直香 宮村 香代子 15.5.1 高野 容子 外科学 15.2.1 松本 孝嗣 15.4.1 丸山 秀樹 脳神経外科学 15.1.1 清水 純 15.4.1 野中 雄一郎 荒川 秀樹 皮膚科学 15.1.1 黒坂 良枝 15.2.1 高瀬 聡子 15.4.1 岩崎 慈子 泌尿器科学 15.4.1 林 典弘 眼科学 15.1.1 葉山 章子 15.4.1 鳥巢 貴子 耳鼻咽喉科学 15.1.1 月館 利治 15.3.1 太田 史一 内視鏡科 15.5.1 齋藤 奈々子 歯科 15.4.1 中井 太一 岡本 太一 小泉 諭子 吉田 奈穂子</p>
---	---	--	--

(無)=無給、(派)=派遣中、(外)=定員外、(非)=非常勤、院取=大学院単位取得者

出向

■助教授(定員外)
15.4.1 健康医学センター(本院・診療医長・助教授) 恩田 威一 産婦人科学

■助手
15.1.1 救急部(柏病院・診療医員・助手) 荒木 崇 内科学
救急部(本院・診療医員・助手) 齋藤 勝也 内科学
救急部(本院・診療医員・助手) 山形 哲也 外科学
救急部(柏病院・診療医員・助手) 渡辺 一裕 外科学
ME研究室(大学・リサーチレジデント・医員) 清水 純 脳神経外科学
15.2.1 救急部(柏病院・診療医員・助手) 鳥海 久乃 外科学
15.4.1 病院病理部(柏病院・診療医員・助手) 小峯 友木子 病理学
臨床腫瘍部(本院・診療医員・助手) 金網 真二 内科学
総合診療部(青戸病院・診療医員・助手) 木村 信明 内科学
救急部(本院・診療医員・助手) 奥野 憲司 脳神経外科学

出向解除

■講師
15.4.1 輸血部(本院) 浅井 治 内科学

■助手
14.7.1 救急部(柏病院) 薄葉 輝之 外科学
14.11.1 救急部(柏病院) 良元 和久 外科学
15.1.1 救急部(本院) 佐々木知也 内科学
救急部(本院) 櫻井 みのり 外科学
救急部(本院) 櫻井 敦男 外科学
救急部(柏病院) 丸山 秀樹 外科学
15.3.1 健康医学センター(本院) 武内 弘明 放射線医学

派遣

秋葉病院
15.4.1 講師 山口 由太郎 脳神経外科学
厚木市民病院
15.4.1 助手 東 吉志 内科学
佐々木知也 内科学
三沢 裕子 産婦人科学
医員 秋山 雅彦 脳神経外科学
英国ロンドン日本クラブ診療所
15.4.1 助手 鈴木 智毅 内科学
大洗海岸病院
15.4.1 講師(派) 高塚 洋二 内科学
大森赤十字病院
15.1.1 助手 中島 康博 耳鼻咽喉科学
神奈川衛生看護専門学校附属病院
15.1.1 助手 今井 貴 外科学
神奈川県立厚木病院
15.1.1 助手 荒尾 誠 整形外科学
川口 泰彦 整形外科学
15.1.1 助手 国枝 武彦 内科学
神奈川リハビリテーション病院
15.1.1 助手 中澤 靖 内科学
癌研究会附属病院
15.1.1 助手 齋藤 良太 外科学
衣笠病院
15.4.1 助手 滝澤 寛重 眼科学
医員 河野 通康 内科学
国立相模原病院
15.1.1 助手 田中 雄一郎 眼科学
15.4.1 医員 鳥巢 貴子 眼科学
国立成育医療センター
15.4.1 助手 和知 敏樹 産婦人科学
15.5.1 医員 中村 文子 精神医学
国立西埼玉中央病院
15.4.1 講師 小野寺達之 内科学

健康医学センター(本院・診療医員・助手) 仲吉 隆 内視鏡科
健康医学センター(本院・診療医員・助手) 佐久間 亨 放射線医学
健康医学センター(本院・診療医員・助手) 望月 恵子 内視鏡科

■助手(無給)
15.1.1 救急部(柏病院・診療医員・助手) 平出 周 整形外科学
救急部(本院・診療医員・助手) 大平 寛典 外科学
15.2.1 ME研究室(大学・助手・無給) 中尾 誠利 解剖学第1
15.4.1 臨床研究開発室(大学・助手・無給) 安田 佳苗 内科学
輸血部(本院・診療医員・助手) 長谷川 望 小児科学

■医員
15.4.1 総合母子健康医療センター小児脳神経外科部門(本院・診療医員・無給・医員) 野中 雄一郎 脳神経外科学
健康医学センター(本院・診療医員・助手) 橋本 博子 内科学
救急部(柏病院・診療医員・助手) 田代 健一 外科学
麻酔部(柏病院・診療医員・無給・医員) 中井 太一 歯科

15.4.1 病院病理部(本院) 小峯 多雅 病理学
病院病理部(柏病院) 金網 友木子 病理学
救急部(本院) 松原 修 脳神経外科学
救急部(本院) 斎藤 隆俊 内科学
救急部(柏病院) 谷口 洋 内科学
救急部(柏病院) 荒木 崇 内科学
健康医学センター(本院) 薄葉 武志 内視鏡科
内視鏡部(本院) 墨 誠 外科学
15.5.1 健康医学センター(本院) 中村 靖幸 内視鏡科

■医員
15.1.1 ME研究室(大学) 佐口 隆之 脳神経外科学

15.4.1 講師(派) 小田 瑞恵 産婦人科学
東京厚生年金病院
15.1.1 助手 重田 泰史 耳鼻咽喉科学
東京国税局診療所
14.12.1 助手 真島 香代子 内科学
東京歯科大学市川総合病院
15.1.1 助手 葉山 貴司 耳鼻咽喉科学
東京都リハビリテーション病院
15.4.1 助手 植松 海雲 リハビリテーション医学
都立大塚病院
15.1.1 医員 富田 和江 小児科学
都立北療育医療センター
15.1.1 助手(無) 宮塚 幸子 小児科学
医員 高橋 佳代子 小児科学
日本航空システム
15.1.1 助手(無) 正田 美穂 内科学
15.4.1 講師 高添 一典 内科学
平塚共済組合病院
15.4.1 助手 伊藤 博之 泌尿器科学
富士市立中央病院
15.1.1 助手 石井 慎一 内科学
高柳 博久 耳鼻咽喉科学
小林 徹也 整形外科学
助手(無) 芹澤 康哲 整形外科学
15.2.1 医員 武田 博 内科学
15.4.1 助手 伊藤 保彦 内科学
石井 博尚 内科学
松原 亮 脳神経外科学
川田 典靖 産婦人科学
平間 正規
益子病院
15.4.1 医員 松本 孝嗣 外科学
町田市民病院
15.1.1 助手 島津 義久 内科学
15.4.1 助手 多田 浩子 内科学
吉澤 海 内科学

(無)=無給、(派)=派遣中、(外)=定員外、(非)=非常勤、院取=大学院単位取得者

派遣解除

厚木市民病院 15.4.1 助手(無) 上田 和 産婦人科学 林 敏信 眼科 橋本 博子 内科学 市川第2病院 15.4.1 医員 田代 健一 外科学 英国ロンドン日本クラブ診療所 15.4.1 講師(派) 高塚 洋二 内科学 大洗海岸病院 15.5.1 医員 和泉 武彦 内科学 神奈川県立厚木病院 15.1.1 助手(無) 芹澤 康哲 整形外科 太田 真由美 皮膚科学 神奈川リハビリテーション病院 15.1.1 助手(無) 吉田 正樹 内科学 15.4.1 助手(無) 岡部 英明 内科学 高橋 寧子 眼科 癌研究会附属病院 15.1.1 助手 大平 寛典 外科学 衣笠病院 15.4.1 医員 伊藤 周二 内科学 国立相模原病院 15.1.1 助手 久保 朗子 眼科学 南部 典彦 眼科学 国立成育医療センター 15.1.1 助手(無) 宮塚 幸子 小児科学 15.4.1 助手(無) 松本 隆万 産婦人科学 国立西埼玉中央病院 15.1.1 助手 大原 こずえ 眼科学 国立東埼玉病院 15.4.1 医員 野崎 和之 小児科学 国立療養所東宇都宮病院 15.1.1 助手(無) 疋田 美穂 内科学 15.4.1 講師(派) 長谷川 節 内科学 埼玉県立循環器・呼吸器病センター 14.12.1 医員 松村 洋高 心臓外科学 15.1.1 医員 永澤 英孝 内科学 15.4.1 助手(無) 野木村 健 内科学 埼玉県立小児医療センター 15.4.1 助手(無) 宮村 正和 小児科学 JR東京総合病院 15.3.1 助手(無) 白川 崇子 放射線医学 社会保険大宮総合病院 15.1.1 助手 小川 匡市 外科学 助手(無) 黒坂 良枝 皮膚科学 15.4.1 助手(無) 鈴木 永純 産婦人科学 医員 岡 瑞穂 内科学 河野 通康 内科学 社会保険桜ヶ丘総合病院 15.1.1 助手(無) 奥田 丈二 内科学 15.4.1 医員 陳 勤一 内科学 湘南病院 15.4.1 医員 加藤 久美子 外科学 飯野 年男 外科学 総武病院 15.4.1 医員 杉本 伸子 精神医学 茅ヶ崎市立病院 15.4.1 助手(無) 梅原 永能 産婦人科学 同愛記念病院 15.1.1 助手(無) 中島 康博 耳鼻咽喉科学 東急病院 15.4.1 医員 鳥巢 貴子 眼科学 東京共済病院 15.1.1 助手(無) 櫻井 裕 耳鼻咽喉科学 東京厚生年金病院 15.1.1 助手(無) 宇井 直也 耳鼻咽喉科学 東京歯科大学市川総合病院 15.1.1 助手 松脇 由典 耳鼻咽喉科学

東京都多摩がん検診センター 15.4.1 講師(派) 小田 瑞恵 産婦人科学 東京都リハビリテーション病院 15.4.1 医員 高田 耕太郎 リハビリテーション医学 虎ノ門病院分院 15.4.1 医員 間森 聡 内科学 都立大塚病院 15.4.1 医員 有賀 賢典 小児科学 都立北療育医療センター 15.1.1 助手(無) 南谷 幹之 小児科学 15.4.1 医員 吉成 聡 小児科学 西熊谷脳病院 15.5.1 医員 中村 文子 精神医学 平塚共済組合病院 15.4.1 助手(無) 林 典宏 泌尿器科学 富士市立中央病院 15.1.1 講師(派) 児島 章 内科学 助手 望月 一成 整形外科 橋爪 山紀夫 外科学 助手(無) 月館 利治 耳鼻咽喉科学 大脇 和彦 放射線医学 15.2.1 医員 大貫 勝美 内科学 15.4.1 助教授(派) 益子 健男 心臓外科学 助手(無) 大塚 俊宏 脳神経外科学 医員 伊藤 洋太 内科学 江崎 敬 産婦人科学 牧田総合病院 15.1.1 助手 平出 周 整形外科 町田市市民病院 15.1.1 助手(無) 山口 真吾 心臓外科学 橋本 浩一 内科学 15.4.1 助教授(派) 石川 眞一郎 内科学 助手(無) 深田 雅之 内科学 医員 小野 雅史 外科学

平成15年度講師(西新橋校)(非常勤)

15.4.1 生理学第1 井元 敏明 生理学第2 小西 真人 遠藤 陽一 田中 悦子 井上 和秀 高崎 健 古里 征國 三階堂 孝 裏田 和夫 鈴木 和子 清水 恵一 大黒 寛 小川 康基 猿田 克年 三澤 章吾 濱田 篤郎 柴崎 敏昭 大山 典明 吉村 邦彦 杉田 洋一 恒男 植松 幹雄 園生 雅弘 酒井 聡一 橋本 隆男 中尾 俊之 美田 誠二 大江 裕一郎 中西 成元 久能 見 野間 健司 藤本 哲夫 渡辺 久之 溝上 恒男

渡辺 嘉久 船越 哲 鬼澤 信明 丸山 晋 上別府 圭子 高橋 敏治 和原 紀之 井原 成男 大野 勉 内山 浩志 大矢 幸弘 伊藤 義彦 三原 一郎 戸澤 孝之 澤田 俊一 牧野 元治 藤田 浩 高山 誠 青柳 裕 後藤 英介 久保 宏隆 細谷 哲男 萩原 博道 南雲 吉則 双津 正博 赤坂 雄一郎 五十嵐 宏 上岡 康雄 佐野 真一 山口 展正 金子 省三 井上 秀朗 上出 洋介 部坂 弘彦 八代 利伸 寥 英和 香川 草平 益子 健康 吉河 達祐 井上 大輔 島海 和弘 田中 正史 熊谷 雅人 渡邊 修 白川 正順 川村 統勇 大黒 寛 長田 広司 繁田 雅弘

平成15年度講師・助手(国領校)(非常勤)

15.4.1 西欧学 萩原 伸次郎 教育学 福田 誠治 日本史 小岩 信竹 欧米文学 大田 信良 倫理学 亀山 純生 社会福祉学 高橋 流里子 社会学 高橋 五江 政治学 松尾 精文 社会保障学 中野 裕二 英語 杉村 宏 DBスチュワート ME.カミンズ A.R.ルイス 渡辺 章子 阿部 潤 武井 博美 藤本 智

ドイツ語 フランス語 日本語表現法 医学史 哲学 心理学2 経済学 和田 敦幸 平岡 牧 塚元 葉子 内村 一幸 石川 麗文 生命基礎科学実習(物) 生命基礎科学実習(生) 生命基礎科学実習(化)

依頼解職

15.3.31 佐藤 尚孝 英語 15.2.28 佐竹 司 麻酔科学 15.3.31 橋本 卓雄 脳神経外科学 15.3.31 所 敏治 小児科学 14.12.31 帆足 英一 小児科学 江崎 史朗 耳鼻咽喉科学 15.3.31 辻本 文雄 放射線医学 14.12.31 及川 剛 小児科学 秋山 芳晃 産婦人科学 矢部 武 耳鼻咽喉科学 一志 公夫 内視鏡科 15.1.31 吉村 邦彦 内科学

15.2.28 永田 徹 外科学 15.3.31 田中 悦子 生理学第2 繁田 雅弘 精神医学 藤崎 順子 内視鏡科 北村 正敬 臨床医学研究所 15.4.30 15.2.28 小坂 和宏 内科学 15.3.31 落合 成正 内科学 神吉 利典 脳神経外科学 15.2.28 三宅 永 臨床検査医学 14.12.31 戸島 恭一郎 内科学 寺島 正浩 内科学 南谷 めぐみ 内科学 坂本 晋 内科学 中谷 晋 放射線医学 植月 勇雄 病理学 15.2.28 黒土 衛 内科学 15.3.31 橋爪 良幸 内科学 岸 竜也 内科学 有野 亨 精神医学 藤本 伊之 秀章 小児科学 伊藤 一範 皮膚科学 大森 幸哲 皮膚科学 峰咲 哲也 皮膚科学 松下 淳 泌尿器科学 川島 宏之 リハビリテーション医学 河井 千穂 内視鏡科 金丸 千穂 内科学 深澤 健至 内科学 14.3.31 金澤 司 小児科学 加藤 康雄 脳神経外科学 阿部 祐二 脳神経外科学 石山 隆三 脳神経外科学 西田 伸 脳神経外科学 望月 龍二 脳神経外科学 八塚 如 脳神経外科学 金子 大成 脳神経外科学 赤地 光司 脳神経外科学 14.8.31 官川 朗 外科学 14.12.31 川上 哲 内科学 黒田 陽久 外科学 梶谷 光太郎 整形外科

15.2.28 稲葉 岳也 耳鼻咽喉科学 15.3.31 土井 健一 内科学 富永 伸徳 内科学 村松 弘康 内科学 野中 和俊 精神医学 中川 茂昭 精神医学 武内 孝介 精神医学 飯野 真理 眼科学 富田 祐司 リハビリテーション医学 14.5.31 田中 和郎 外科学 14.12.31 守屋 祐介 外科学 15.3.31 七条 裕美 小児科学 天野 雅子 皮膚科学 大山 かおり 眼科学 15.5.31 佳久 真之 歯科 15.3.31 本間 仁 微生物学第1 山内 照夫 微生物学第1 上田 三紀子 微生物学第1 岩見 高尚 微生物学第1 伊藤 潔 微生物学第1 芥子 宏行 微生物学第1

雇用契約期間満了

15.2.28 佐々木佳世子 臨床医学研究所

定年退職

15.3.31 大野 典也 微生物学第1 田中 順一 神経科学研究所神経病理学研究室 新村 真人 皮膚科学 15.3.31 入山 啓治 DNA医学研究所 瀧上 誠 R I 実験研究施設 久保 宏隆 外科学 裏田 和夫 医学情報センター 15.1.31 スジャルオ 内科学 15.3.31 柳澤 彌太郎 産婦人科学

教員(看護学科)

15.4.1 木村 直史 医療総論 15.4.1 河合 良訓 解剖生理学I 15.4.1 岡本 仁 客員教授 15.4.1 平尾 真智子 基礎看護学 15.4.1 藤井 哲郎 助教授(兼任) 英語 15.4.1 菊池 麻由美 基礎看護学 15.4.1 山田 秀樹 成人看護学 15.4.1 長 佳代 小児看護学 15.4.1 小澤 竹俊 臨床成人看護学III (非) 15.4.1 小坂 国繼 哲学 (非) 15.4.1 兵藤 宗吉 心理学2 (非) 15.4.1 山崎 志郎 (非) 15.4.1 田澤 あけみ (非) 15.4.1 加納 尚美 (非) 15.4.1 宮崎 麻里 成人看護学 (非)

レジデント

15.1.1 吉澤 海 内科 二上 敏樹 望月 英明 館野 直 沼田 尊功 丸山 大 仙石 錬平 佐藤 敬太 高木 聡 柴山 健理

(無)=無給、(派)=派遣中、(外)=定員外、(非)=非常勤、院単取得=大学院単位取得者

(無)=無給、(派)=派遣中、(外)=定員外、(非)=非常勤、院単取得=大学院単位取得者

山尾 瑞奈 整形外科
益井 芳文 整形外科
宮下 弓 (無)
木村 弘章 (無)
豊川 泰彦 (無)
海老澤 高憲 (無)
飯沼 敏朗
天木 誠
15.5.1 精神医学
15.4.1 小幡 こず恵
小児科
15.1.1 高橋 久美子 (無)
15.4.1 田口 貴子 (無)
阿部 法子 (無)
野矢 三樹 (無)
日暮 憲道 (無)
高田 大 (無)
15.5.1 皮膚科
15.1.1 岩屋 聖子 (無)
堀 和彦 (無)
小林 康隆 (無)
佐々木 一 (無)
伊東 啓悟 (無)
15.2.1 加藤 一郎 (無)
15.4.1 片山 壽子 (無)
伊東 秀記 (無)
石氏 陽三 (無)
吉田 寿斗志 (無)
大原 夕佳 (無)
15.5.1 外科
15.1.1 大橋 仁志 (無)
三島 亮 (無)
整形外科
15.1.1 石川 義久 (無)
諸橋 正行 (無)
原 正道 (無)
15.4.1 植田 純子 (無)
篠原 光 (無)
真島 敬介 (無)
脳神経外科
15.4.1 栃木 悟 (無)
郭 樟吾 (無)
高島 伸之介 (無)
形成外科
15.1.1 小島 正裕 (無)
心臓外科
15.4.1 木ノ内勝士 (無)
篠原 玄 (無)
産婦人科
15.4.1 安西 範晃 (無)
田中 邦治 (無)
小田 華子 (無)
青木 宏明 (無)
岩崎 椎子 (無)
泌尿器科
15.4.1 木戸 雅人 (無)
吉良 慎一郎 (無)

小杉 繁 整形外科
沼崎 進 整形外科
15.5.1 讚岐 邦太郎 (無)
梅津 清和 (無)
眼科
15.1.1 池田 泰道 (無)
田島 寛 (無)
高階 博嗣 (無)
15.4.1 竹内 智一 (無)
耳鼻咽喉科
15.1.1 山崎 ももこ (無)
久納 浄 (無)
宇田川友克 (無)
青木 謙祐 (無)
落合 文 (無)
15.4.1 長尾 哲兵 (無)
濱 孝憲 (無)
リハビリテーション科
15.4.1 中澤 征人 (無)
放射線科
15.4.1 松島 理士 (無)
五十嵐 隆朗 (無)
蘆田 浩一 (無)
蘆山 健 (無)
高木 佐矢子 (無)
成田 賢一 (無)
麻酔科
15.4.1 岡本 靖久 (無)
照井 貴子 (無)
岩井 健一 (無)
齋藤 敬太 (無)
内視鏡科
15.4.1 益子 貴博 (無)
医員
15.4.1 石黒 晴哉 (無)
岡本 典平 (無)
小田原 俊一 (無)
小林 剛 (無)
中野 真範 (無)
矢吹 辰男 (無)
山城 健二 (無)
三浦 琢磨 (無)
伊藤 秀之 (無)
大山 知弘 (無)
塚田 有紀子 (無)
福井 亮 (無)
山城 秀樹 (無)
神崎 恭子 (無)
鯨岡 大輔 (無)
寺尾 吉生 (無)
徳留 さとり (無)
森本 智 (無)
皆川 俊介 (無)
石澤 将 (無)
金澤 康 (無)
横山 洋紀 (無)
宮原 庸介 (無)

15.5.1 山口 いずみ 整形外科
久保 恭仁 整形外科
村上 善勇 耳鼻咽喉科
柳沼 樹宏 耳鼻咽喉科
小池 健太郎 耳鼻咽喉科
中田 耕太郎 耳鼻咽喉科
志村 恭子 耳鼻咽喉科
高久 洋太郎 耳鼻咽喉科
藤井 拓朗 耳鼻咽喉科
清水 昭博 耳鼻咽喉科
15.6.1 精神医学
15.4.1 原田 大輔 耳鼻咽喉科
昼間 洋平 耳鼻咽喉科
落合 結介 耳鼻咽喉科
岩崎 弘 耳鼻咽喉科
小児科
15.4.1 岡野 恵里香 小児科
三上 陽子 小児科
河内 貞貴 小児科
齋藤 亮太 小児科
田村 英一郎 小児科
長島 達郎 小児科
15.5.1 外科
15.5.1 安江 英晴 整形外科
大橋 仁志 整形外科
整形外科
15.4.1 宮坂 輝幸 整形外科
笠間 憲太郎 整形外科
久富 輔 整形外科
白 勝 整形外科
小池 裕人 整形外科
形成外科
15.4.1 北村 珠希 形成外科
皮膚科
15.4.1 岩屋 聖子 皮膚科
心臓外科
15.4.1 松井 道大 心臓外科
泌尿器科
15.4.1 佐々木 裕 泌尿器科
眼科
15.4.1 小笠原幹英 眼科
田中 聡 眼科
小川 智一郎 眼科
藤田 剛史 眼科
藤田 剛史 眼科
葵沢 幸恵 眼科
加藤 秀紀 眼科
久保 寛之 眼科
耳鼻咽喉科
15.4.1 山本 和央 耳鼻咽喉科
リハビリテーション科
15.4.1 岡本 隆嗣 耳鼻咽喉科
大学院単位取得者
内科
15.4.1 玉城 成雄 内科
小林 政司 内科
藤本 啓 内科

病院長部(本院) 藤田 明彦 外科
救急部(本院) 相良 憲彦 内科
15.4.1 麻酔部(本院) 篠原 玄 心臓外科
麻酔部(第三病院) 高島 伸之介 脳神経外科

■出向
■助手
15.1.1 麻酔部(本院) 田中 格 眼科
内視鏡部(本院) 墨 誠 外科

(無)=無給、(派)=派遣中、(外)=定員外、(非)=非常勤、院単取得=大学院単位取得者

麻酔部(第三病院) 小池 裕人 整形外科
麻酔部(青戸病院) 山本 和央 耳鼻咽喉科
■大学院単位取得者
15.1.1 救急部(本院) 齋藤 隆俊 内科
救急部(本院) 豊田 千純子 内科

■出向解除
■助手
15.1.1 心臓外科(柏病院) 墨 誠 外科
麻酔部(青戸病院) 伊藤 正臣 眼科
麻酔部(第三病院) 鈴木 理恵 耳鼻咽喉科
麻酔部(第三病院) 牛久 智加良 整形外科
内視鏡部(本院) 矢野 健太郎 外科
救急部(本院) 宮永 哲 外科
救急部(本院) 齋藤 敦 内科
救急部(柏病院) 安藤 精貴 外科
救急部(柏病院) 北里 精一朗 整形外科
救急部(柏病院) 鳥巢 勇一 内科
15.4.1 麻酔部(本院) 田中 格 眼科
15.5.1 麻酔部(第三病院) 高島 伸之介 脳神経外科

■派遣
青山病院
15.4.1 助手(無) 宮坂 輝幸 整形外科
厚木市立病院
15.4.1 医員 藤田 剛史 眼科
三上 陽子 小児科
岩手県立遠野病院
15.1.1 助手 落合 文 耳鼻咽喉科
大森赤十字病院
15.4.1 医員 清水 昭宏 内科
神奈川県衛生看護専門学校附属病院
15.4.1 医員 河内 貞貴 小児科
山本 泉 内科
神奈川県立厚木病院
15.1.1 助手 伊東 慶悟 皮膚科
15.4.1 助手 真島 敬介 整形外科
神奈川リハビリテーション病院
15.4.1 医員 木村 弘章 内科
川口市立医療センター
15.1.1 助手 三宅 亮 外科
15.4.1 医員 永妻 啓介 内科
日下 正久 内科
癌研究会附属病院
15.4.1 助手 高木 佐矢子 放射線科
衣笠病院
15.4.1 医員 湯川 豊一 内科
国立国際医療センター
15.4.1 医員 高原 映崇 内科
国立埼玉病院
15.4.1 医員 小山 達也 内科
国立相模原病院
15.1.1 助手 高階 博嗣 眼科
15.4.1 医員 松平 浩 内科
国立成育医療センター
15.1.1 助手 高橋 久美子 小児科
15.4.1 助手 岩崎 稚子 産婦人科
国立精神・神経センター武蔵病院
15.4.1 医員 磯部 建夫 内科
国立西埼玉中央病院
15.1.1 助手 佐々木 一 皮膚科
15.4.1 医員 小室 朋子 内科

■派遣解除
岩手県立遠野病院
15.1.1 助手(無) 青木 謙祐 耳鼻咽喉科
大船中央病院
15.1.1 医員 大橋 仁志 外科
大森赤十字病院
15.4.1 医員 丸山 大 内科
神奈川県衛生看護専門学校附属病院
15.4.1 医員 田口 貴子 小児科
三留 淳 内科
荒瀬 聡史 内科
川口市立医療センター
15.1.1 医員 安藤 精貴 外科
15.4.1 医員 飯田 里菜子 内科

国立病院東京医療センター
15.4.1 医員 田中 寿一 内科
国立療養所東都宮病院
15.1.1 助手 諸橋 正行 整形外科
済生会中央病院
15.4.1 院単取得 山岸 弘子 内科
埼玉県立循環器・呼吸器病センター
15.4.1 医員 久保田健之 内科
滝沢 信一郎 内科
埼玉県立小児医療センター
15.4.1 助手 高田 大 小児科
松井 道大 心臓外科
三楽病院
15.4.1 医員 田中 賢 内科
社会保険大宮総合病院
15.1.1 助手 小林 康隆 皮膚科
15.4.1 助手 藤本 啓 内科
社会保険桜ヶ丘総合病院
15.1.1 医員 木下 晃吉 内科
聖隷三方原病院
15.4.1 医員 小川 和男 内科
東急病院
15.4.1 助手(無) 丹治 麻子 眼科
東京通信病院
15.4.1 医員 阪口 真之 内科
虎ノ門病院分院
15.4.1 医員 佐伯 千里 内科
都立大塚病院
15.4.1 医員 岡本 隆嗣 リハビリテーション科
西熊谷脳病院
15.5.1 助手(無) 阿部 定則 精神医学
沼津市立病院
15.4.1 医員 加藤 順一郎 内科
富士市立中央病院
15.4.1 助手 成田 賢一 放射線科
医員 小川 智一郎 眼科
加藤 秀紀 眼科
岡野 恵里香 小児科
白 勝 整形外科
相澤 摩周 内科
百瀬 邦雄 内科
林 洋介 内科
森本 彩子 内科
松井 芳憲 内科
牧田総合病院
15.1.1 助手 原 正道 整形外科
益子病院
15.4.1 医員 鈴木 孝秀 内科
町田市民病院
15.4.1 医員 金子 有吾 内科

■派遣解除
岩手県立遠野病院
15.1.1 助手(無) 青木 謙祐 耳鼻咽喉科
大船中央病院
15.1.1 医員 大橋 仁志 外科
大森赤十字病院
15.4.1 医員 丸山 大 内科
神奈川県衛生看護専門学校附属病院
15.4.1 医員 田口 貴子 小児科
三留 淳 内科
荒瀬 聡史 内科
川口市立医療センター
15.1.1 医員 安藤 精貴 外科
15.4.1 医員 飯田 里菜子 内科

国立国際医療センター
15.4.1 医員 高木 聡 内科
益井 芳文 内科
清水 健一 内科
15.5.1 国立埼玉病院
15.4.1 医員 佐々木英之 内科
国立相模原病院
15.4.1 医員 豊川 泰彦 内科
国立佐倉病院
15.4.1 助手(無) 村山 明子 内科
国立精神・神経センター武蔵病院
15.4.1 院単取得 豊田 千純子 内科
国立西埼玉中央病院
15.1.1 助手(無) 堀 和彦 皮膚科
15.4.1 院単取得 海老澤高憲 内科
国立病院東京医療センター
15.4.1 医員 天木 誠 内科
国立療養所東都宮病院
15.1.1 医員 石川 義久 整形外科
15.4.1 医員 松浦 憲一 内科
済生会中央病院
15.4.1 院単取得 大城戸一郎 内科
埼玉県立循環器・呼吸器病センター
15.4.1 医員 松尾 征一郎 内科
埼玉県立小児医療センター
15.4.1 医員 木ノ内勝士 心臓外科
三楽病院
15.4.1 医員 山尾 瑞奈 内科
社会保険大宮総合病院
15.4.1 医員 三留 博子 内科
聖隷三方原病院
15.4.1 医員 柴山 健理 内科
宮田 秀一 内科
聖路加国際病院
15.1.1 助手(無) 宇田川友克 耳鼻咽喉科
東京通信病院
15.4.1 医員 佐藤 敬太 内科
東京労災病院
15.1.1 医員 池田 泰道 眼科
日赤医療センター
15.4.1 院単取得 小野内健司 内科
沼津市立病院
15.4.1 医員 遠藤 聡 内科
富士市立中央病院
15.1.1 助手(無) 田島 寛 眼科
15.4.1 医員 五條 淳 内科
前田 光治郎 内科
町田市民病院
15.4.1 医員 宇田川 崇 内科
横浜労災病院
15.4.1 医員 仙石 鍊平 内科

■依頼解職
■助手
15.3.31 推津 昌司 内科
■助手(無給)
14.12.31 西村 祐子 精神医学
■医員
15.3.31 有吉 中 精神医学
■大学院単位取得者
15.3.31 山前 浩一郎 内科

(無)=無給、(派)=派遣中、(外)=定員外、(非)=非常勤、院単取得=大学院単位取得者

職員

新採用

法人事務局 15.4.1 9等級 (副参事) 課長 事務員 経理課 中村 恵示

本院 15.4.1 看護師・看護部 鈴木 きよみ 甲斐 奈緒美

青戸病院 15.4.1 事務員・医事課 米田 武夫

第三病院 14.12.1 看護師・看護部 丸住 美絵

15.1.1 看護師・看護部 三谷 麻美

15.2.1 看護師・看護部 藤田 みゆき

15.4.1 看護師・看護部 栗原 要子

柏病院 15.1.1 調理師・栄養部 細田 暁彦

15.4.1 看護師・看護部 逆井 恵

企画室 15.4.1 5等級 (副主務) 事務員・秘書課 藤代 恵美

情報広報室 15.4.1 6等級 (主務) 主任 事務員 システム課 磯部 毅

法人事務局 15.4.1 10等級 (参事) 部長 事務員 財務部 小島 憲明

9等級 (副参事) 課長心得 事務員 給与課 秋元 文夫

8等級 (副参事) 副教育主事 看護教員 慈恵看護専門学校 蝦名 總子

7等級 (主務) 事務員 慈恵実業出向 関 厚志

係長 事務員 人事課 曾根田明弘

係長 事務員 人事部 峰 隆志

看護教員 慈恵看護専門学校 上間 ゆき子

6等級 (主務) 看護教員 慈恵看護専門学校 浅賀 清美

5等級 (副主務) 看護教員・慈恵看護専門学校 山本 由美子

4等級 (副主務) 看護教員・慈恵看護専門学校 鹿倉 みさ子 森實 詩乃 鈴木 まゆみ

大学 15.4.1 9等級 (副参事) 課長心得 事務員 教務課 高橋 実貴雄

8等級 (副参事) 事務員 学務課 加藤 一人

課長補佐 事務員 研究支援課 横山 明能

7等級 (主務) 係長 司書 医学情報センター(西新橋校) 北川 正路

係長 研究技術員 病理学 杉本 正樹

主査 研究技術員 医学情報センター(西新橋校) 小松 一祐

5等級 (副主務) 研究技術員・実験動物施設 飯塚 きよみ

4等級 (副主務) 司書・医学情報センター(西新橋校) 大崎 泉

本院 15.4.1 10等級 (参事) 部長心得 事務員 事務部 今出 進章

部長心得 薬剤師 薬剤部 菊野 史豊

8等級 (副参事) 技師長補佐 臨床検査技師 中央検査部 平田 龍三

技師長補佐 診療放射線技師 放射線部 成田 浩人

副主事 看護師 治験管理室 松木 祥子

7等級 (主務) 係長 事務員 医事課 勝又 和夫

看護師 看護部 岳 可奈子

看護師 看護部 吉元 久美子

看護師 看護部 玉上 淳子

看護師 看護部 前田 康代

看護師 看護部 嶋田 裕子

看護師 看護部 鈴木 喜美子

事務員 施設用度課 今関 美津男

係長 事務員 施設用度課 佐藤 正

事務員 施設用度課 高田 弘之

係長 事務員 晴海トリートクリニック 中島 秀司

係長 診療放射線技師 放射線部 安藤 俊弘

係長 診療放射線技師 放射線部 布施 章

診療放射線技師 放射線部 瀧澤 代輔

6等級 (主務) 師長 事務員 医事課 田澤 久美

看護師 看護部 大平 綾子

師長代理 看護師 看護部 一戸 珠美

師長代理 看護師 看護部 河内山 祐子

師長代理 看護師 看護部 及川 香織

師長代理 看護師 看護部 佐藤 恵

師長代理 看護師 看護部 星 理津子

主任 看護師 看護部 田村 宏美

看護師 看護部 岩尾 亜希子

看護師 看護部 杉田 千代子

看護師 看護部 石田 和代

看護師 看護部 内田 有紀

看護師 看護部 和氣 江利子

事務員 施設用度課 内藤 靖之

事務員 病院管理課 星野 真也

主任 診療放射線技師 放射線部 竹澤 均

薬剤師 薬剤部 平島 徹

臨床検査技師 臨床検査部 塩谷 美江子

臨床検査技師 臨床検査部 河西 美知子

臨床検査技師 臨床検査部 久保 敬信

5等級 (副主務) 主任・理学療法士・リハビリテーション科 中山 恭秀

理学療法士・リハビリテーション科 高橋 仁

主任・事務員・医事課 塚本 巨彦

主任・調理師・栄養部 鈴木 憲之

師長代理・看護部 堀 友子

主任・看護師・看護部 伊藤 利江 越川 由理

角田 真由美 笠巻 望 河田 好美

高平 真由美 小松 由佳 関 久美子

織田 紀子 西浜 香苗 小松 あずさ

渡邊 綾子 藤木 秀佳 川江 壮子

鈴木 きよみ 鈴木 優佳 美島 路恵

看護部・看護部 横内 さおり 宮拜 美恵 官本 美由紀

牛山 明子 三浦 俊江

小松 雅子 松村 真紀 仙浪 理英 中村 裕美 柏木 恵子 樋口 和美 北條 文美 米間 栄里 鈴木 和恵 鈴木 和香子 鈴木 和香子

主任・営繕員・施設用度課 山下 慎一 木村 義人 八木 隆則

主任・臨床検査技師・輸血部 山崎 義晃 田口 恵美 昭

臨床工学技士・臨床工学部 4等級 (副主務) 事務員・医事課 安部 一之 鈴木 将司

事務員・医事課 (看護部出向) 岩月 康子 金澤 尚美 林 治美

主任・看護師・看護部 看護師・看護部 阿部 志保 安本 めぐみ 磯部 綾子

奥村 静 横島 真由美 乙坂 香

外村 公子 丸谷 裕美 原 有紀

高玉 美貴子 今澤 文恵 佐藤 希

佐藤 夕子 笹木 織絵 山元 直樹

山本 恭子 時田 まゆみ 小原 志麻

小松 美代子 松井 由理 西口 泰代

西留 麻弓 石垣 和代 石戸谷 友子

石塚 美枝子 千葉 夏美 川上 恵美

村上 明子 大橋 由佳 大野 道子

池田 佳子 中川 理恵 中村 玲子

津波 占正美 土屋 ともえ 藤森 美紀

藤本 佳子 二宮 礼子 二見 陽子

白田 富美江 平田 山紀子 平田 陽子

本間 江美 野上 智恵 野澤 小島

高山 博子 小杉 正子 野島 真山美

菅井 信二 清水 信二 仲村 敦子

菅井 敦子 加塩 大吾 片 悦子

診療放射線技師・放射線部 松田 直子 成沢 亮祐 昌 正真

臨床検査技師・臨床検査部 寒河江京子 小長井弘美 石井 敬子

川津 陽子 田中 淳子 渡邊 徳美

青戸病院

15.4.1 10等級 (参事) 部長 事務員 事務部 鈴木 命

9等級 (副参事) 師長 (部長兼代行) 看護師 看護部 阿部 素子

7等級 (主務) 係長 事務員 医事課 安楽 茂樹

看護師 看護部 加藤 山美子

看護師 看護部 原 桂

看護師 看護部 山川 育子

係長 事務員 総務課 山口 喜一

診療放射線技師 放射線部 岩田 真

6等級 (主務) 看護師 看護部 向後 加代子

看護師 看護部 長谷部 恵子

診療放射線技師 放射線部 加藤 孝志

5等級 (副主務) 主任・事務員・医事課 吉野 博子

主任・看護師・看護部 斎藤 ルミ子 野口 美佐子

看護部・看護部 鎌木 山香 佐々木 優子 酒井 あおい

成沢 則子 並木 佳世 矢野 町子

事務員・総務課

主任・薬剤師・薬剤部 染谷 雅弘

看護教員・青戸看護専門学校 木地谷香代子

4等級 (副主務) 主任・看護師・看護部 吉川 由美子

看護部 看護部 榎本 美加 丸山 千夏 岩本 奈緒

看護部 看護部 宮内 孝恵 桐生 美恵子 甲斐 ことえ

看護部 看護部 寺崎 智美 小山 久美子 青柳 のぞみ

看護部 看護部 早川 めぐみ 中村 昌子

臨床検査技師・中央検査部 永野 裕子 嶋村 弘子

看護教員・青戸看護専門学校 三好 加奈子

第三病院 15.4.1 8等級 (副参事) 課長補佐 薬剤師 薬剤部 並木 徳之

7等級 (主務) 看護師 看護部 山下 正和

看護師 看護部 紙屋 美幸

看護師 看護部 菱田 清子

係長 診療放射線技師 放射線部 今林 昭典

係長 臨床工学技士 臨床工学部 平塚 明倫

6等級 (主務) 主任 言語聴覚士 リハビリテーション科 道関 京子

師長 看護師 看護部 室伏 敦子

師長 看護師 看護部 田畑 瑠美子

主任 看護師 看護部 安藤 真紀子

看護師 看護部 藤原 定子

主任 臨床検査技師 中央検査部 横山 雄介

看護師 看護部 布川 昌子

主任 薬剤師 薬剤部 第三看護専門学校 加藤 紀代美

看護教員 第三看護専門学校 加藤 紀代美

5等級 (副主務) 事務員・医事課 竹下 保

主任・看護師・看護部 佐藤 小百合

看護部・看護部 元 智昌 松岡 康子 早川 亜矢子

菅田 佳子 田中 久代 日比野史恵

白崎 和美 野呂 和彦

看護師・薬剤部 4等級 (副主務) 主任・栄養士・栄養部 赤石 定典

看護部・看護部 座光寺史江 松浦 真由美 松澤 真山子

早川 真弓 太田 由美子 朝日 幹子

山中 佳子 藤本 麗子 樋口 貴子

保坂 亜希子 北條 育子 鈴木 規恵子

看護教員・第三看護専門学校 伊藤 直樹

看護部・看護部 加辺 隆子 高林 百合子

柏病院 15.4.1 9等級 (副参事) 課長 (部長兼代行) 事務員 事務部 須賀 一元

8等級 (副参事) 課長補佐 薬剤師 薬剤部 押切 優美子

7等級 (主務) 看護師 看護部 菅原 直子

診療放射線技師 放射線部 松浦 博満

6等級 (主務) 事務員 医事課 小沼 重幸

事務員 医事課 前田 光一郎

師長 看護師 看護部 板垣 伸子

師長代理 看護師 看護部 大谷 勝枝

看護師 看護部 星 ユカリ

看護師 看護部 川和田博美

主査 臨床検査技師 中央検査部 小峯 直彦

診療放射線技師 放射線部 角田 英嗣

薬剤師 薬剤部 赤石 和久

5等級(副主務) 主任・看護師・看護部 宮城 久仁子 佐々木ゆみ 中澤 美紀 猪野 良子 看護師・看護部 吉田 臣千抄 吉田 富美 渡辺 昌代 臨床工学技士・臨床工学部 浦井 好二 理学療法士 白井 友一 看護教員・柏看護専門学校 菱谷 純子 棚沢 昌子 4等級(副主務) 事務員・医事課(看護部出向) 鈴木 秀子 主任・看護師・看護部 中村 史子 高橋 明子 看護師・看護部 井上 美帆 羽野 千登里 岡安 知美 岡野 尚子 関口 紀子 吉沢 百恵 玉本 綾子 坂本 佳美 山崎 裕子 小林 恵美 水野 友香 杉浦 泉 小川 久美子 増島 晃子 村田 広美 田村 さおり 田中 幸恵 土橋 千春 土田 友美 播磨 亜紀 白石 真紀 飯村 晶子 武井 久美子 竹内 まゆみ 臨床検査技師・中央検査部 中川 知佐子 診療放射線技師・放射線部 川井田洋一 薬剤師・薬剤部 岩崎 智子 今野 良未 看護教員・柏看護専門学校 森元 洋子

転入

企画室 15.4.1 酒井 洋人 5等級(副主務) 事務員 経営企画課 青戸病院 法人事務局 15.4.1 渡井 光 8等級(副参事) 事務員 庶務課 企画室 加藤 一人 8等級(副参事) 事務員 人事課 大学 小堀 卓子 事務員 同窓会出向 大学 横井 由紀枝 4等級(副主務) 事務員 附属病院 池田 直美 4等級(副主務) 看護教員 附属病院 伴 美智子 4等級(副主務) 看護教員 附属病院 徳丸 佳子 看護教員 附属病院 松阪 祐子 事務員 給与課 第三病院 大学 15.4.1 河村 聡明 8等級(副参事) 事務員 学務課 法人事務局 本院 15.4.1 峰 隆志 7等級(主務) 事務員 病院管理課 法人事務局 柿沼 恵理子 4等級(副主務) 看護師 看護部 法人事務局 佐藤 直美 4等級(副主務) 看護師 看護部 法人事務局 林 健一 5等級(副主務) 事務員 病院管理課 大学 木野 善之 8等級(副参事) 診療放射線技師 晴海トリトンクリニック 附属病院 五十嵐久美子 事務員 事務部 附属病院 土岐 純子 事務員 健康医学センター 附属病院 中村 幸生 6等級(主務) 事務員 医事課 青戸病院 嶋村 弘子 4等級(副主務) 臨床検査技師 健康医学センター 青戸病院 萩野 智加 事務員 医事課 青戸病院 田中 千穂 診療放射線技師 放射線部 青戸病院 坂倉 光好 9等級(副主務) 薬剤師 薬剤部 第三病院 木下 博子 8等級(副参事) 看護師 看護部 第三病院 村山 正人 8等級(副参事) 薬剤師 薬剤部 第三病院 下平 昭治 7等級(主務) 診療放射線技師 放射線部 第三病院 佐藤 信一 7等級(主務) 理学療法士 リハビリテーション科 第三病院 関根 英樹 6等級(主務) 調理師 栄養部 第三病院 栗田 知英 5等級(副主務) 事務員 医事課 第三病院 西内 麻子 事務員 医事課 第三病院 遠藤 智久 臨床工学技士 臨床工学部 第三病院 中村 高良 理学療法士 リハビリテーション科 第三病院

片山 絵美子 看護師 看護部 第三病院 池田 勇一 7等級(主務) 臨床検査技師 中央検査部 柏病院 松原 哲正 7等級(主務) 診療放射線技師 放射線部 柏病院 有賀 庸代 7等級(主務) 看護師 看護部 柏病院 篠田 良行 4等級(副主務) 調理師 栄養部 柏病院 市井 直美 臨床検査技師 輸血部 柏病院 青戸病院 15.4.1 赤坂 礼子 寄宿舎管理員 総務課 法人事務局 柳澤 美津代 8等級(副参事) 看護師 看護部 附属病院 北澤 和子 7等級(主務) 看護師 看護部 附属病院 星野 道雄 5等級(副主務) 事務員 物品管理課 附属病院 村上 結美子 5等級(副主務) 臨床検査技師 中央検査部 附属病院 悠起子 看護師 看護部 附属病院 田中 光夫 9等級(副参事) 事務員 医事課 第三病院 松原 馨 8等級(副参事) 診療放射線技師 放射線部 第三病院 森木 利恵子 7等級(主務) 看護師 看護部 第三病院 殖木 忠 調理師 栄養部 第三病院 小林 和美 7等級(主務) 事務員 医事課 柏病院 砂山 容子 4等級(副主務) 事務員 医事課 柏病院 白石 かをり 診療放射線技師 放射線部 柏病院

第三病院 15.4.1 高山 利幸 7等級(主務) 事務員 医事課 法人事務局 今関 美津男 8等級(副参事) 事務員 物品管理課 附属病院 川井 龍美 8等級(副参事) 薬剤師 薬剤部 附属病院 瀧澤 代輔 8等級(副参事) 診療放射線技師 放射線部 附属病院 熊木 光枝 8等級(副参事) 看護師 看護部 附属病院 平島 徹 6等級(主務) 薬剤師 薬剤部 附属病院 鈴木 憲之 5等級(副主務) 調理師 栄養部 附属病院 中山 恭秀 5等級(副主務) 理学療法士 リハビリテーション科 附属病院 加塩 大吾 4等級(副主務) 事務員 医事課 附属病院 友田 崇 4等級(副主務) 診療放射線技師 放射線部 附属病院 友田 芳美 看護師 看護部 附属病院 堀井 陽子 看護師 看護部 附属病院 石田 久美子 理学療法士 リハビリテーション科 附属病院 宮崎 純子 7等級(主務) 看護師 看護部 青戸病院 山口 アキエ 総務補佐 総務課 青戸病院 中島 幸恵 4等級(副主務) 看護教員 慈恵看護専門学校 第三病院 菅原 直子 8等級(副参事) 看護師 看護部 柏病院 田村 卓 5等級(副主務) 臨床検査技師 中央検査部 柏病院 白井 友一 5等級(副主務) 理学療法士 リハビリテーション科 柏病院 小倉 理枝 理学療法士 リハビリテーション科 柏病院

柏病院 15.4.1 植松 美知男 8等級(副参事) 事務員 医事課 法人事務局 岡見 弘美 事務員 医事課 法人事務局 佐藤 周 8等級(副参事) 臨床検査技師 晴海トリトンクリニック 附属病院 鈴木 恒夫 7等級(主務) 臨床検査技師 中央検査部 附属病院 市川 恵子 7等級(主務) 看護師 看護部 附属病院 福田 朋弘 6等級(主務) 事務員 医事課 附属病院 長谷川 智子 6等級(主務) 臨床検査技師 中央検査部 附属病院 田村 宏美 6等級(主務) 看護師 看護部 附属病院 伊藤 裕章 4等級(副主務) 診療放射線技師 放射線部 附属病院 竹内 文子 4等級(副主務) 調理師 栄養部 附属病院 江口 智子 事務員 栄養部 附属病院 根岸 正弘 8等級(副参事) 事務員 総務課 青戸病院 岩田 真 8等級(副参事) 診療放射線技師 放射線部 青戸病院 力久 裕美 看護師 看護部 青戸病院 中村 尚人 理学療法士 整形外科 第三病院 山田 久枝 看護教員 慈恵看護専門学校 柏病院

部内異動

本院 15.4.1 種田 誠 8等級(副参事) 事務員 医療安全管理室 時田 聡 8等級(副参事) 事務員 医療安全管理室 高田 浩志 5等級(副主務) 事務員 病院管理課 牛山 輝美 事務員 病院管理課

五十嵐久美子 事務員 病院管理課 近藤 敏江 臨床検査技師 健康医学センター 中川 みゆき 6等級(主務) 看護師 医療安全管理室 高草木エミ 4等級(副主務) 看護師 治療管理室 武澤 俊夫 7等級(主務) 診療放射線技師 晴海トリトンクリニック 石野 舞 診療放射線技師 晴海トリトンクリニック 鶴田 智司 5等級(副主務) 診療放射線技師 放射線部 大河内多恵 診療放射線技師 放射線部

復職

本院 15.1.7 杉平 香織 事務員 医事課(看護部出向) 15.1.25 上野 真理 看護師 看護部 15.3.13 徳丸 佳子 看護師 看護部 池田 直美 4等級(副主務) 看護師 看護部 15.3.27 角田 真由美 5等級(副主務) 看護師 看護部 15.4.1 寺嶋 香織 4等級(副主務) 薬剤師 薬剤部 小川 美緒 理学療法士 リハビリテーション科 関口 綾 臨床検査技師 中央検査部 金森 清美 看護師 看護部 山田 敦子 看護師 看護部 田村 宏美 6等級(主務) 看護師 看護部 望月 亜紀 看護師 看護部 15.4.7 湯澤 めぐみ 事務員 医事課(看護部出向) 15.4.14 吉田 美雪 臨床検査技師 中央検査部 15.5.1 山田 めぐみ 看護師 看護部 青戸病院 14.12.1 松本 尚子 保育士 看護部 15.3.1 加藤 正江 4等級(副主務) 看護師 看護部 15.4.14 里見 美紀子 看護師 看護部 古旗 香織 看護師 看護部 金井 みどり 看護師 看護部 15.4.16 伊藤 京美 看護師 看護部 15.5.9 吉野 久美子 看護師 看護部 第三病院 14.12.1 新井 さわ 事務員 医事課(看護部出向) 15.3.13 中島 幸恵 4等級(副主務) 看護師 看護部 15.4.1 井上 洋美 4等級(副主務) 看護師 看護部 長谷 麗子 事務員 医事課(看護部出向) 梶原 香織 看護師 看護部 15.4.15 小早川 清美 看護師 看護部 15.5.1 伊藤 美千子 看護師 看護部 柏病院 14.12.2 吉田 臣千抄 4等級(副主務)主任 看護師 看護部 14.12.7 吉田 しずこ 看護師 看護部 15.1.1 金成 俊子 4等級(副主務) 看護師 看護部 15.3.12 福田 良美 看護師 看護部 15.3.13 山田 久枝 看護師 看護部 15.3.24 猪野 良子 5等級(副主務) 看護師 看護部 15.3.29 鳥津 幸代 看護師 看護部 15.4.1 勝俣 はるみ 6等級(主務)主任 薬剤師 薬剤部 小田 真夕実 看護師 看護部

休職

本院 14.12.1 吉田 美雪 臨床検査技師 中央検査部 15.1.6 田島 忍 看護師 看護部 15.1.23 渡邊 律 5等級(副主務) 看護師 看護部 15.2.11 渡邊 ゆう子 看護師 看護部 15.2.18 戸澤 智恵 5等級(副主務)主任 看護師 看護部 15.2.20 関口 綾 臨床検査技師 中央検査部 15.2.22 中澤 由美子 5等級(副主務) 看護師 看護部 15.3.20 丸山 めぐる 5等級(副主務)主任 看護師 看護部 15.4.1 三槻 麻生 研究補助員 放射線医学講座

河村 山紀子 看護師 看護部 樽見 麻由佳 看護師 看護部 15.4.3 佐久間寿美代 歯科衛生士 歯科 高柳 くみ子 事務員 医事課(看護部出向) 15.5.1 後藤 久美 看護師 看護部 15.5.21 牛込 留美香 4等級(副主務) 看護師 看護部 青戸病院 15.4.1 松林 山恵 看護師 看護部 15.4.4 鈴木 恵津子 事務員 医事課(看護部出向) 15.4.8 石渡 綾子 看護師 看護部 15.5.15 竹内 美樹 5等級(副主務) 看護師 看護部 15.5.27 羽坂 葉月 4等級(副主務) 看護師 看護部 第三病院 15.1.16 若林 実砂 4等級(副主務) 看護師 看護部 15.1.18 齋藤 山美子 看護師 看護部 15.2.6 伊藤 美千子 看護師 看護部 15.2.20 島田 陽子 4等級(副主務) 看護師 看護部 15.4.1 後藤 千恵子 看護師 看護部 15.4.3 小山 真理子 看護師 看護部 15.4.5 日加田晴子 看護師 看護部 15.4.8 庄子 美代子 6等級(主務) 看護師 看護部 藤本 麗子 4等級(副主務) 看護師 看護部 15.4.13 溝江 美代子 4等級(副主務) 栄養士 栄養部 柏病院 14.12.7 小田 真夕実 看護師 看護部 14.12.29 宇佐美直美 看護師 看護部 15.1.26 荒井 賞枝 4等級(副主務) 看護師 看護部 15.2.5 小松 愛 看護師 看護部 15.2.8 高岡 美也子 事務員 医事課(看護部出向) 15.2.14 勝俣 はるみ 6等級(主務)主任 薬剤師 薬剤部 15.3.13 上野 真紀 4等級(副主務) 看護師 看護部 15.4.1 高橋 ゆかり 5等級(副主務) 看護師 看護部 15.4.9 溝口 理美 5等級(副主務) 看護師 看護部 15.4.12 日比野幸子 5等級(副主務)主任 看護師 看護部 15.5.1 高橋 愛理 看護師 看護部

職種変更

大学 15.1.1 南波 涼子 研究技術研修員 実験動物施設

その他

本院 15.3.31 宮崎 麻里 看護師 看護部 附属病院勤務を解く

依願解職

法人事務局 14.12.31 中村 明子 看護教員 慈恵看護専門学校 15.3.31 三本 洋子 6等級(主務) 看護教員 慈恵看護専門学校 本山 景子 4等級(副主務) 看護教員 慈恵看護専門学校 宮本 みずほ 事務員 給与課 横山 杏里 事務員 同窓会 15.5.31 徳丸 佳子 看護教員 慈恵看護専門学校 大学 14.12.31 原山 薫 研究技術員 病理学 15.2.28 田中 智香子 研究技術員 アイソトープ実験施設 15.3.31 吉田 紀代美 4等級(副主務) 研究補助員 生理学第1 本院 14.12.1 松岡 純会 看護師 看護部 14.12.31 中村 秀 6等級(主務) 診療放射線技師 放射線部 正中 清香 事務員 医事課 渡辺 奈緒子 看護師 看護部 高階 浩子 看護師 看護部 田戸 弘幸 臨床工学技士 臨床工学部

Table with 4 columns: ID, Name, Grade/Role, Department, and another Department. Includes names like 下谷 英美, 利穂 多紀子, etc.

Table with 4 columns: Name, Grade/Role, Department, and another Department. Includes names like 力津 真帆, 矢崎 千夏, etc.

Table with 4 columns: Name, Grade/Role, Department, and another Department. Includes names like 阿部 桜子, 和田 宏子, etc.

Table with 4 columns: Name, Grade/Role, Department, and another Department. Includes names like 鷹架 清子, 福原 朋子, etc.

15.5.13	西尾 美樹	看護師	看護部
14.12.31	福士 美奈子	看護師	看護部
	有吉 恵子	事務員	医事課
	杉田 利恵	事務員	医事課
	佐藤 裕美	事務員	医事課
	鈴木 忍	栄養士	栄養部
	松平 奈美	薬剤師	薬剤部
15.1.7	山本 園子	看護師	看護部
15.1.29	佐野 祐子	看護師	看護部
15.1.31	細田 麻希	看護師	看護部
	中嶋 安曇	看護師	看護部
	本間 幸子	看護師	看護部
	鈴木 美保	事務員	医事課
15.2.20	梶山 朋美	看護師	看護部
15.2.28	佐藤 雅美	看護師	看護部
	西村 久美子	看護師	看護部
15.3.31	寺田 哲治	8等級(参事)課長補佐	事務員
	情野 龍子	6等級(主務)師長	看護師
	石川 智子	5等級(主務)主任	看護師
	橋爪 葉子	5等級(主務)主任	看護師
	平田 美香	5等級(主務)主任	看護師
	亀田 実花	4等級(副主務)	看護師
	松本 葉子	4等級(副主務)	看護師
	櫻井 亜紀	4等級(副主務)	看護師
	高崎 純子	4等級(副主務)	看護師
	今別府 めぐみ	4等級(副主務)	看護師
	栗山 美枝	4等級(副主務)	看護師
	白井 治子	4等級(副主務)	看護師
	磯前 直美	事務員	医事課
	池田 直子	事務員	医事課
	木村 美幸	事務員	医事課
	長塚 有美	看護師	看護部
	半沢 友紀	看護師	看護部
	鈴木 恵美子	看護師	看護部
	田中 直子	看護師	看護部
	谷 真山美	看護師	看護部
	宇野 悦子	看護師	看護部
	遠藤 知美	看護師	看護部
	新垣 純子	看護師	看護部
	吉川 亜矢子	看護師	看護部
	渡邊 紀子	看護師	看護部
	白水 陽子	看護師	看護部
	深堀 妙子	看護師	看護部
	富迫 和美	看護師	看護部
	伊藤 暁子	看護師	看護部
	上村 恭子	看護師	看護部
	小泉 安代	看護師	看護部
	寺本 理恵	看護師	看護部
	羽田 真奈美	看護師	看護部
	花田 聡子	看護師	看護部
	八木 めぐみ	看護師	看護部
	関野 ひとみ	看護師	看護部
	澁谷 香代	看護師	看護部
	松本 香織	看護師	看護部
	小方 陽子	看護師	看護部
	竹松 純恵	看護師	看護部
	村上 隆子	看護師	看護部
	松岡 亜希子	看護師	看護部
	茂木 美香	看護師	看護部
	堀越 まゆ子	看護師	看護部

	高橋 佳代	看護師	看護部
	岡田 麻美	看護師	看護部
	井上 聡子	看護師	看護部
	大熊 百子	看護師	看護部
	田村 友美	看護師	看護部
	菅原 里恵	看護師	看護部
	大饗 千紗	看護師	看護部
	熊谷 麻衣子	看護師	看護部
	藤本 恵江	看護師	看護部
	小原 瑞江	看護師	看護部
	星野 真弓	看護師	看護部
	大橋 寛子	看護師	看護部
	山崎 智子	看護師	看護部
	村中 裕美	看護師	看護部
	中島 知子	看護師	看護部
	小笠原 智子	看護師	看護部
	高橋 裕子	看護師	看護部
	錦戸 和子	薬剤師	薬剤部
	井上 直美	薬剤師	薬剤部
	中山 明子	薬剤師	薬剤部
	水野 亜希子	薬剤師	薬剤部
	杉本 幸恵	薬剤師	薬剤部
	永井 牧	薬剤師	薬剤部

定年退職

大学	15.3.31	渡邊 恒昭	研究技術補助員	実験動物施設
本院	15.3.31	午来 ヨリ子	9等級(参事)副課長	看護師
		徳田 紘一	7等級(主務)係長	理学療法士
		逸見 敏一		整備員
		本間 敏治		調理員
		田中 國子		准看護師
		武口 洋子		看護補助員
		中澤 みち子		看護補助員
		中川 三枝子		看護補助員
青戸病院	15.3.31	千葉 幹子	10等級(参事)課長	看護師
		大谷 玉子	7等級(主務)師長	看護師
		笠松 登美子	5等級(副主務)主任	看護師
		岩井 康子	5等級(副主務)	事務員
		水野 敏夫	5等級(副主務)	整備員
		菅野 カツ子		看護師
		渡邊 功江		准看護師
		藤原 豊子		看護補助員
		大垣 文子		整備員
		池上 好子		調理員
第三病院	15.3.31	中澤 素子	7等級(主務)主任	看護師
		伊藤 一広	7等級(主務)主任	臨床検査技師
		芹沢 保	5等級(副主務)主任	整備員
		砂川 美江子	4等級(副主務)主任	看護師
		山口 孝子	4等級(副主務)主任	調理員
		河野 浩子		事務員
		西 喜美子		事務員
		津久井 利重		整備員
		八木 昭子		看護補助員
		浅川 紀子		看護補助員
		武藤 公子		看護補助員
		浦田 サク		看護補助員
柏病院	15.3.31	秋山 健一	10等級(参事)部長	事務員
		佐藤 勇	8等級(参事)課長	診療放射線技師
		谷口 紀子		看護補助員
		永吉 紀子		看護補助員
		井出 ケイ		調理員

■診療部長	青戸病院	15.3.1	見島 章	呼吸器・感染症内科	診療医員から
		15.4.1	本田 まりこ	皮膚科	本院診療医長から
■第三病院	15.6.1	谷口 正幸	循環器内科	青戸病院診療医長から	
■柏病院	15.3.1	近江 禎子	麻酔部	診療医長から	
	15.4.1	村上 成之	脳神経外科	本院診療医長から	
		益子 健男	心臓外科	診療医員から	
		加藤 智弘	内視鏡部	本院診療医員から	
■診療部長(兼任)	柏病院	15.1.1	川尻 久雄	内視鏡部	本院内視鏡部診療部長
■診療部長(代行)	本院	15.5.1	上出 良一	皮膚科	診療副部長から
■診療副部長	本院	15.6.1	谷口 郁夫	循環器内科	第三病院診療部長から
■診療医長	青戸病院	15.1.1	星野 寛倫	リハビリテーション科	診療医員から
	本院	15.1.1	歳田 英明	糖尿病・代謝・内分泌内科	伊国留学から帰国
			矢野 真吾	血液・腫瘍内科	診療医員から
			渡邊 朗	眼科	青戸病院診療医長から
			萩原 栄一郎	救急部	診療医員から
			宮脇 剛司	形成外科	診療医員から
			岸 陽子	形成外科	診療医員から
			吉田 正樹	感染制御部	診療医員から
			高橋 浩一	給付機能センター・小児科	診療医員から
			山崎 辰男	循環器内科	第三病院循環器内科診療医長から
			坂本 敬子	糖尿病・代謝・内分泌内科	柏病院診療医長から
			浅井 治	血液・腫瘍内科	輸血部診療医長から
			竹内 常道	皮膚科	青戸病院診療部長から
			大浦 調章	産婦人科	診療医員から
			山田 恭輔	産婦人科	診療医員から
			藤原 千江子	麻酔部	診療医員から
			荒川 廣志	内視鏡部	柏病院診療医長から
			白石 稔	スポーツクリニック	
			恩田 成一	健康医学センター	本院産婦人科診療医長から
			福元 耕	健康医学センター	診療医員から
			鈴木 英明	総合診療部	診療医員から
■青戸病院	15.1.1	正木 英二	麻酔部	本院非常勤診療医長から	
	15.6.1	山崎 辰男	循環器内科	附属診療医長から	
■第三病院	15.1.1	磯西 成治	産婦人科	本院診療医長から	
■柏病院	15.1.1	吉田 博	総合診療部	診療医員から	
■診療医員	本院	14.4.1	小澤 真帆	産婦人科	レジデント修了
		14.12.1	松村 洋高	心臓外科	埼玉県立循環器・呼吸器センターから復帰
			小森 敦史	耳鼻咽喉科	准診療医員から
			井坂 剛	糖尿病・代謝・内分泌内科	准診療医員(無給)から
			布山 裕一	小児科	柏病院診療医員から
			小川 匡市	外科	社会保険大総合病院から復帰
			斎藤 祐二	外科	米国留学から帰国
			田部井 功	外科	柏病院診療医員から

櫻井 みのり	外科	救急部診療医員から		
志田 敦男	外科	救急部診療医員から		
佐口 隆之	脳神経外科			
村山 雄一	脳神経外科	准診療医員から		
宮脇 剛司	形成外科	第三病院診療医員から		
三木 健太	泌尿器科	柏病院診療医員から		
木村 高弘	泌尿器科	第三病院診療医員から		
久保 朗子	眼科	国立相模原病院から復帰		
吉川 衛	耳鼻咽喉科	国内留学から帰校		
宇井 直也	耳鼻咽喉科	東京厚生年金病院から復帰		
谷口 雄一郎	耳鼻咽喉科	柏病院診療医員から		
吉田 正樹	感染制御部	神奈川県リハビリテーション病院から復帰		
齊藤 勝也	救急部	消化器・肝臓内科診療医員から		
15.2.1	菅原 正幸	脳神経外科	米国留学から帰国	
	赤井 良太	麻酔部	青戸病院診療医員から	
	高橋 浩一	脳神経外科	脳神経外科診療医員から	
15.3.1	川崎 成郎	外科	准診療医員(無給)から	
	白川 崇子	放射線部	JR東京総合病院から復帰	
15.4.1	長谷川 節	神経内科	国立療養所東宇都宮病院から復帰	
	岡部 英明	腎臓・高血圧内科	神奈川県リハビリテーション病院から復帰	
	橋本 浩一	循環器内科	准診療医員(無給)から	
	田中 康之	循環器内科	准診療医員(無給)から	
	大川 豊	血液・腫瘍内科	レジデント修了	
	剛史	血液・腫瘍内科	レジデント修了	
	石川 威夫	呼吸器内科	レジデント修了	
	杉本 伸子	精神神経科	総武病院から復帰	
	有賀 賢典	小児科	都立大塚病院から復帰	
	宮村 正和	小児科	埼玉県立小児医療センターから復帰	
	佐藤 康伴	整形外科	准診療医員から	
	石井 文久	整形外科	准診療医員から	
	中崎 浩道	脳神経外科	柏病院診療医員から	
	富井 雅人	脳神経外科	第三病院診療医員から	
	鷲海 元博	心臓外科	柏病院診療医員から	
	江崎 敬	産婦人科	富士市立中央病院から復帰	
	杉本 公平	産婦人科	柏病院診療医員から	
	高橋 寧子	眼科	神奈川県リハビリテーション病院から復帰	
	林 敏信	眼科	厚木市立病院から復帰	
	太田 史一	耳鼻咽喉科	米国留学から帰国	
	安藤 和美	麻酔部	准診療医員から	
	佐藤 文哉	感染制御部	レジデント修了	
	長谷川 望	輸血部		
	斎藤 彰一	内視鏡部		
	金網 友木子	病院病理部	柏病院診療医員から	
	奥野 憲司	救急部	本院脳神経外科診療医員から	
	宇野 真二	臨床腫瘍部	本院血液・腫瘍内科診療医員から	
	佐久間 亨	健康医学センター	本院放射線部診療医員から	
15.5.1	石山 哲	外科	レジデント修了	
	石橋 敏寛	脳神経外科	国内留学から帰校	
	望月 恵子	健康医学センター	青戸病院診療医員から	
	内田 知宏	呼吸器内科	准診療医員(無給)から	
	芦塚 修一	外科	帰国	
	郷田 憲一	内視鏡部	新規採用	
■青戸病院	14.12.1	内田 亮	耳鼻咽喉科	准診療医員から
	15.1.1	橋爪 由紀夫	外科	富士市立中央病院から復帰
		長 剛正	外科	柏病院診療医員から
		大原 こずえ	眼科	国立西埼玉中央病院から復帰
		茂呂 八千世	耳鼻咽喉科	本院診療医員から
		見島 章	呼吸器・感染症内科	第三病院診療医員から
		戸谷 直樹	外科	本院診療医員から
		齋藤 洋一	麻酔部	本院診療医員から
15.2.1	吉成 聡	小児科	レジデント修了	
	加藤 久美子	外科	湘南病院から復帰	
	岩崎 幸治	整形外科	准診療医員から	
	林 孝彰	眼科	レジデント修了	
15.5.1	中村 靖幸	内視鏡部	本院健康医学センター診療医員から	



Table listing medical staff members, their departments, and their roles. Includes sections for 第三病院, 青戸病院, 柏病院, and 准診療医員.

Table listing medical staff members, their departments, and their roles. Includes sections for 准診療医員 (無給), 第三病院, 青戸病院, and 柏病院.

Table listing medical staff members, their departments, and their roles. Includes sections for 非常勤診療医員 (兼任), 非常勤診療医長, 非常勤診療医長 (兼任), and 非常勤診療医員.

Table listing medical staff members, their departments, and their roles. Includes sections for 非常勤診療医員 (兼任), 診療部長解除, 診療部長 (兼任) 解除, 診療副部長解除, 診療医長解除, and 診療医員解除.

	岸 竜也	血液・腫瘍内科	退職
	井上 寧	呼吸器内科	国内留学
	峰咲 幸哲	皮膚科	退職
	松下 哲也	皮膚科	退職
	荒川 秀樹	脳神経外科	米国留学
	川島 淳	泌尿器科	退職
	入江 健夫	放射線部	一般休職
	金丸 千穂	内視鏡部	退職
	松原 修	救急部	富士市立中央病院派遣
青戸病院			
14.12.31	齊藤 良太	外科	癌研究会附属病院派遣
	清水 純	脳神経外科	ME 出向
	内田 亮	耳鼻咽喉科	社会保険大宮総合病院派遣
	有野 亨	循環器内科	退職
15.3.31			
第三病院			
14.12.31	島津 義久	循環器内科	町田市市民病院派遣
	石井 慎一	呼吸器・感染症内科	富士市立中央病院派遣
	及川 剛	小児科	退職
	川瀬 正昭	皮膚科	米国留学
	今井 貴	外科	神奈川県衛生看護専門学校附属病院派遣
	小林 徹也	外科	富士市立中央病院派遣
	川口 泰彦	整形外科	神奈川立厚木病院派遣
	葉山 貴司	耳鼻咽喉科	東京歯科大学市川総合病院派遣
15.3.31	佐々木知也	消化器・肝臓内科	神奈川立厚木病院派遣
	河野 優	神経内科	富士市立中央病院派遣
	小野寺達之	循環器内科	国立西埼玉中央病院派遣
	橋爪 良幸	循環器内科	退職
	石井 博尚	糖尿病・代謝・内分泌内科	富士市立中央病院派遣
	多田 浩子	呼吸器・感染症内科	町田市市民病院派遣
	三沢 裕子	産婦人科	神奈川立厚木病院派遣
	高野 浩邦	産婦人科	米国留学
	深澤 健至	呼吸器・感染症内科	退職
15.4.30			
柏病院			
14.12.31	寺島 正浩	糖尿病・代謝・内分泌内科	退職
	荒尾 誠	整形外科	神奈川立厚木病院派遣
	重田 泰史	耳鼻咽喉科	東京厚生年金病院派遣
	高柳 博久	耳鼻咽喉科	富士市立中央病院派遣
15.3.31	小澤 律子	神経内科	国内留学
	丸山 之雄	腎臓・高血圧内科	スウェーデン留学
	川井 三恵	循環器内科	東急病院派遣
	鈴木 智毅	循環器内科	英国ロンドン日本クラブ診療所派遣
	東 吉志	循環器内科	神奈川立厚木病院派遣
	伊従 秀章	小児科	退職
	平間 正規	産婦人科	富士市立中央病院派遣
	和知 敏樹	産婦人科	国立成育医療センター派遣
	伊藤 博之	泌尿器科	平塚共済組合病院派遣
15.4.30	鈴木 智毅	循環器内科	英国ロンドン日本クラブ診療所派遣
■准診療医員解除			
本院			
15.1.31	松脇 由典	耳鼻咽喉科	国内留学
15.3.31	藤本 浩之	精神神経科	退職
	川田 典靖	心臓外科	富士市立中央病院派遣
	滝澤 寛重	眼科	衣笠病院派遣
	吉田 奈穂子	歯科	国内留学
15.5.31	飯田 和之	眼科	厚木市立病院派遣
青戸病院			
15.3.31	岩崎 慈子	皮膚科	一般休職
第三病院			
14.12.31	近澤 仁志	耳鼻咽喉科	東京共済病院派遣
	植月 勇雄	放射線部	退職
15.2.28	高野 容子	小児科	一般休職
柏病院			
15.1.31	高瀬 聡子	皮膚科	一般休職
15.3.31	丸島 秀樹	外科	大学院入学のため

■准診療医員（無給）解除			
本院			
14.12.31	鶴崎 哲史	循環器内科	埼玉県立循環器・呼吸器センター派遣
15.1.31	武田 博	循環器内科	富士市立中央病院派遣
15.3.31	石川 哲也	循環器内科	埼玉県立循環器・呼吸器センター派遣
	荏原 太	糖尿病・代謝・内分泌内科	デンマーク留学
	大山 かおり	眼科	退職
青戸病院			
15.3.31	田嶋 美智子	放射線部	一般休職
■非常勤診療医長解除			
本院			
15.3.31	宮島 真之	総合診療部	
	浅井 治	血液・腫瘍内科	
	久保 宏隆	呼吸器・内分泌外科	定年退任
	太田 有史	暗海トリトンクリニック	柏病院転勤
	繁田 雅弘	暗海トリトンクリニック	退職
15.4.30	田原 卓浩	小児科	退職
第三病院			
12.10.31	木村 英三	産婦人科	第三病院診療部長
柏病院			
15.3.31	一志 公夫	内視鏡部	
	藤崎 順子	内視鏡部	
■非常勤診療医長（兼任）解除			
本院			
14.12.31	矢部 武	暗海トリトンクリニック	退職
15.3.31	和田 高士	総合診療部	
■非常勤診療医員解除			
本院			
15.3.31	宇野 真二	臨床腫瘍部	
	入江 健夫	暗海トリトンクリニック	一般休職
15.4.30	望月 恵子	内視鏡部	本院転勤
	中村 靖幸	暗海トリトンクリニック	青戸病院転勤
青戸病院			
14.12.31	土屋 昌史	呼吸器・感染症内科	
	古田 島理佐	呼吸器・感染症内科	
	山口 浩史	呼吸器・感染症内科	
15.4.30	中村 靖幸	内視鏡部	青戸病院転勤
■非常勤診療医員（兼任）解除			
本院			
15.2.28	武内 弘明	暗海トリトンクリニック	
15.3.31	加藤 智弘	暗海トリトンクリニック	
	杉浦 徹	暗海トリトンクリニック	
	金丸 千穂	暗海トリトンクリニック	
	吉川 奈穂子	暗海トリトンクリニック	
15.4.30	飯田 和之	暗海トリトンクリニック	厚木市立病院派遣

人事

平成14年12月31日(火)	依願解職	中村 明子	看護教員(慈恵看護専門学校)
平成15年3月31日(月)	依願解職	三木 洋子 本田 景子	看護教員(慈恵看護専門学校) 看護教員(慈恵看護専門学校)
平成15年4月1日(火)	7等級(主務)	看護教員	上間 ゆき子 6等級(主務) 看護教員
	6等級(主務)	看護教員	浅賀 清美 5等級(副主務) 看護教員
	5等級(副主務)	看護教員	山本 由美子 4等級(副主務) 看護教員
	4等級(副主務)	看護教員	鈴木 まゆみ
	4等級(副主務)	看護教員	森實 詩乃
	4等級(副主務)	看護教員	鹿倉 みさ子
	転入	4等級(副主務) 事務員	横井 由紀枝 (附属病院 医事課)
		8等級(副参事) 副教育主事・看護教員	蝦名 總子 (附属病院 看護部研修)
		4等級(副主務) 看護教員	伴 美智子 (附属病院 看護部)
		4等級(副主務) 看護教員	池田 直美 (附属病院 看護部)
		看護教員	徳丸 佳子 (附属病院 看護部)
	転出	事務員	岡見 弘美 (柏病院 事務部)
		4等級(副主務) 看護教員	柿沼 恵理子 (附属病院 看護部 看護師)
		4等級(副主務) 看護教員	佐藤 直美 (附属病院 看護部 看護師)
平成15年5月31日(土)	依願解職	徳丸 佳子	看護教員(慈恵看護専門学校)

行事

平成14年11月19日(火)	1. 東京慈恵会理事会在開催された。
平成15年3月14日(金)	1. 慈恵看護専門学校卒業式が、寛仁親王妃信子殿下のご臨席のもとに挙行された。 卒業生 67名
平成15年3月18日(火)	1. 東京慈恵会理事会・評議員・臨時総会が開催された。
平成15年4月5日(土)	1. 平成15年度慈恵看護専門学校入学式が挙行された。 入学生 86名

ご寄付のお礼

BULLETIN BOARD

ご寄付のお礼と今後のご協力をお願い

東京慈恵会医科大学は創立以来、患者さんのための医療を追求し、教育機関・医療機関としてその使命を果たしてまいりました。最高・最善の医療を提供していくために不断の努力を傾注しておりますが、そのためには大学・病院の基盤整備が不可欠でございます。

創立百二十周年記念事業として、教育・研究の中心となる大学1号館が平成14年3月末に竣工し、今後も本院外来棟の建築、青戸病院の新築、第三病院や柏病院の整備などを進めてまいります。これらの基盤整備には莫大な資金が必要となり、大学も自助努力を重ねておりますが、自ずからの資金調達には限界があります。

平成12年10月より、創立百二十周年記念募金を目標額50億円として申込受付を開始いたしております。皆様のご支援をいただき、平成15年5月末までに下記の寄付金の申込がございましたので、ご報告申し上げます。

本学の将来計画と学祖の精神にご賛同賜り、関係各方面から心温まるご支援をいただき、ご芳志に厚くお礼申し上げます。はなはだ厳しい経済状況のもと、ご協力をお願いいたしまして誠に恐縮ではございますが、そのご支援が必ずや社会に還元されていくこととご理解賜りますよう、さらにより一層の努力をしていく所存です。今後とも関係各位の全面的なご協力・ご支援を、よろしくお願い申し上げます。

創立百二十周年記念事業委員会委員長
学校法人 慈恵大学 理事長 **岡村 哲夫**

寄付金申込者区別累計

(平成15年5月31日現在)

総申込者数	3,386件
総申込金額	2,871,981,595円
区別申込状況	
・卒業生 OB	929件 727,647,020円
・父兄会関係	286件 605,394,000円
・教職員	1,866件 296,015,565円
・賛同企業	264件 1,184,700,000円
・一般団体&個人	41件 58,225,010円

寄付者名簿

BULLETIN BOARD

同窓生

秋山 竹松
石永 隆成
遠藤 茂通
大越 裕文
大槻 磐男
加地 正伸
國府田英雄
柴 山紀子
鈴木 敬
鈴木 豊
高野 佐太夫
武田 智子
長谷川忠夫
原瀬 瑞夫
原田 真人
藤原 昇
待木 和夫
光吉 俊明
三原 一郎
柳田 知司
渡辺 嘉造伊

同窓会支部・クラス会

同窓会品川支部
慈大 昭三三会
昭和54年卒業生一同
慈恵五八会

父兄

浅利 秀男
阿部 宣男
伊藤 栄作
稲葉 尚治
宇田川善勝
内尾 武博
榎 孝典
荻原 重弘
小倉 洋志
樺 恵
完山 進相
木島 澄子
月花 道正
合地 研吾
駒崎 守
相良 長孝
佐々木正仁

佐藤 二郎
島本 辰俊
互 正
田島 賢一
寺田 一政
富田 悦次
西尾 茂
橋本 喜一
朴 明郁
外園 克巳
前川 暢男
正畠 守
松岡 明子
松村 定明
三輪 沙織
山元 功
好川 恒夫

教職員

白井 信男
蝦名 總子
川村 哲也
柴 琢也
中村 恵示
山崎 春城

一般個人

木田 泰夫
黒岩 ミヨ子
染谷 和子
富井 妙子

企業・一般団体

シスメックス (株)
タイコヘルスケア ジャパン (株)
日本メジフィジックス (株)
(株) 日立メデイコ

●平成14年12月1日から平成15年5月31日までに寄付くださった方々の内容に基づき作成しました。

●教職員で給与、賞与から天引きされている方々ならびに分割振込みされている方々のご芳名は省略しています。

●ご芳名は敬称を省略し、五十音順に掲載しました。

●尚、この名簿には匿名希望の方の分は掲載しておりません。



The **JIKEI** 2003 Summer Vol.4

発行 学校法人 慈恵大学
発行人 理事長 岡村哲夫
連絡先 〒105-8461 東京都港区西新橋3-25-8
慈恵大学 広報課
電話 03-3433-1111
F A X 03-5472-4796
e-mail koho@jikei.ac.jp
号数 第4号
発行日 2003年7月1日

<http://www.jikei.ac.jp/>

~~~~~ 編集後記 ~~~~~

4号目を迎えたThe JIKEIは、いかがでしたでしょうか。今回の特集では大学基準協会から適合認定を受けたことをご報告するとともに、客観的な評価を大学改革にどう活かして行くのかをお伝えしました。大学教育が新たな局面を迎える中、期待される大学であり続けることを目指して努力してまいります。本誌では、今後も皆様に知っていただきたい本学の情報を、より解りやすく、魅力的な形でお伝えし、より良い法人誌にしていきたいと考えておりますので、本誌をご覧になったご意見やご感想をお寄せくださいますよう、お願い申し上げます。

大学広報委員会委員長 阿部 俊昭